

第63回
戦車道
全国高校生大会
増刊第6号

乙女たちの戦車道ライフをサポートする専門誌

月刊戦車道

巻頭特集 今だから語れる決勝戦の隠れたドラマをスクープ!
グラフィック イン アクション

強豪校に迫る知波単学園の力量を探る
ライバルチーム研究

日本のユニークな戦車を徹底解説!
不肖・秋山優花里の
戦車講座

ついに決着! 激闘の先にあった戦車道の真髄とは!!
聖グロリアーナ女学院、戦いの軌跡
聖グロリアーナ女学院[神奈川]×黒森峰女学園[熊本]への道〈最終回〉

ガルパン関連の最新情報をお届け!
ガルパン トピックス

ガルパン関係者の思いを伝える
プロジェクトG~ガルパンを支えた人びと~

優勝した大洗女子学園のハートフルな後日談
大洗女子[茨城]チームの日常

勝利に貢献した2チームを紹介!
大洗女子[茨城]チームメンバー 戦車愛を語る

グラフィック イン アクション
GRAPHIC IN ACTION





全力で相手を叩き潰す それが黒森峰の流儀

第二次世界大戦序盤、ドイツ軍は戦車で通過不可能と思われた「アルデンヌの森」を越え、フランスに侵攻。瞬く間に占領した。黒森峰はその故事にならったのか、全国大会の決勝戦では、森林地帯を突破して大洗女子に襲いかかった。

試合開始前、黒森峰の隊長・西住まほは「厚い皮膚より早い脚」と、ドイツの軍人、グデーリアンの言葉を引用。迅速な行動を指示した。だが試合は、大洗女子の奇抜な作戦により思わぬ方向へと進むのであった。

連載小説

聖グロリアーナ女学院、戦いの軌跡

聖グロリアーナ女学院×黒森峰女学園への道

鈴木貴昭

最終回



勝利の方法はただひとつ

　ちらっと時計を見ると、通信用のマイクを取り上げるダージリン。伸ばした右の人差し指を回転させて指示をすると、小さくうなずいて全車向けの通信に切り替えるオレンジペコ。

「こちらアンナ・マリア、アフタヌーンティの準備はどうかしら?」

　ダージリンの通信に、各車輛から次々と報告が入ってくる。

『サンドイッチ、キュウリが品切れです』

『スコーンもまだ焼き上がりません』

『クロテッドクリーム準備良し、いつでもどうぞ』

『ショート・ペストリー完成してます』

『パフも焼き上がりました』

『ハム、卵、チーズ準備良し』

『アプリコットジャム足りません』

『プロフィットロール、まだ膨らんでおりません』

　すべての報告を確認すると、指示を出すダージリン。



「了解、そろそろお客様が到着するころよ。それぞれ準備を怠らないように」

『了解！』

「さて、楽しいティーパーティの時間よ」

うれしそうに通信を終わらせたダージリンに、怪訝な顔を向けるオレンジペコ。

「あの、ダージリン様……試合前から思っていたんですが、この変な暗号には意味があるんですか?」

「ふふ、もし傍受されても、あの内容なら、分からないでしょう?」

得意げに笑みを浮かべるダージリンだが、オレンジペコが冷静に突っ込みを入れる。

「いや、あの内容なら、普通に分かると思います」

静かにアッサムが口を開く。

「暗号と言うのは、もっと分かりにくくするか、それとも通常の会話のように見せかけて、全然違う内容にしないと意味がないですね」

照準器に目を当てたまま、情報処理学部第6課で学んだ知識を披露するアッサム。

「違う内容?」

「そうですね、1号車エンジン故障という通信が、実際は2号車が目標位置についた、とかです」

「うーん、それでは、緊急時には混乱の種になりますわね」

「なので、暗号であることを示す符牒を入れるのが普通ですが……」

「ちょっと、戦車道の試合で使うには難しそうですわね」

残念そうに肩をすくめるダージリン。

そこにオレンジペコが重ねて質問する。

「同じ車輌に、複数回報告させたのは?」

「黒森峰側に、こちらの残存車輌数を誤認させるためよ」

地図を見て車輌と暗号コードを確認するオレンジペコ。

「えーっと、サンドイッチがニルギリのクロムウェル、スコーンがクルセーダー1号車、クロテッドクリームが2号車でしたよね」

頷くダージリン。

「そう、黒森峰のフラッグ車探索に出した3輌ね」

「そして残りのショート・ペストリーがマチルダ3号車、パフが4号車ですか」

「今は潜伏して、機を見て再びかく乱する予定よ」

「で、アンナ・マリアって誰?」

アッサムが不思議そうに質問する。

「あ、私知ってます。7代目ベッドフォード公爵の奥さんで、アフタヌーンティを始めた人ですよね。モーツァルトの母親も同じ名前だったりしますが、別に関係はあり

ません」
　得意げに答えるオレンジペコ。
　その横で、何かを言おうと口を開いたダージリンであったが、言いたいことを全部オレンジペコに言われてあきらめたのか、長い息をつく。
「つまり、この通信はアフタヌーンティに絡めた暗号になっている、と知らせるコードなんですね」
　少々感心した口調のアッサム。
「なるほど、そして残りはダミー……要するに、うちのアフタヌーンティの時に出てくるのが本物で、出さないのがダミーだと」
「どれがダミーかまでは、さすがの黒森峰でも分からないでしょう？」
「……それはまあ、確かに」
　アッサムがしぶしぶ認めたのを聞いて、ちょっと得意げな表情を浮かべるダージリン。
　たとえ通信内容が分かったとしても、ダミーを混ぜておけば、どれが正しい情報か判断するのは難しくなる。そのうえ、今回のように乱戦になれば、試合中にどれだけ撃破したかは、正確な数がつかめないこともめずらしくない。なので、無線を傍受したことで逆に誤認して、存在しない敵に対して警戒を行うこともありうる。
　実際、大会が進んで一回の試合に出る車輌が多くなればなるほど、隊長車がすべての車輌を視界のなかに収めて管理することは難しくなる。そのため、通常隊長車に乗り込んでいる無線手は、味方からの報告をつねに確認し、地図上に敵味方の位置をプロットするのが重要な仕事のひとつとなっている。
　この地図を元に、隊長が刻々と変化する戦況に対して、臨機応変に新たな指示を出していくことが、優秀なチームの隊長には求められている。だが専任の無線手が置かれていない車輌では通信の送受信だけではなく、相手の位置確認から各個の車輌への指示まで、隊長がひとりですべてをやらなければならない。通常でも大きい戦車長の負担に、さらに隊長や無線手の業務まで加わると、急激な戦況の変化に付いて行けなくなることもめずらしくない。それが原因で敗北することもあるので、各校ともできるだけ隊長は指揮に専念させようと考えてはいるが、専任の無線手がいない車輌や、そもそも無線機すら積んでいない戦車もある。
　ダージリンが乗っているチャーチルも、装填手のオレンジペコが無線手を兼任しており、世界的に見ればドイツ戦車のように、専任の無線手がいる方がめずらしい。かと言って、無線手の席を後から作るのも、戦車の内部には余分なスペースがないので難しい。結局、各校とも手持ちの車輌でやりくりするしかない。そのため、なかには最初から無線通信で複雑な作戦を行うのはあきらめて、事前に取り決めておいた作戦と、変更する時は短い命令のみで対応しようと考えている学校まであるほどであった。対して黒森峰は全車輌がドイツ戦車で揃えられており、無線の使用にも長けている。それを考えれば、普段はやらないような小細工までして、ダージリンが警戒するのも無理のないことではあった。だが、そこに冷たい声でアッサムが突っ込みを入れる。
「理由は良く分かりましたが、それ以前に、黒森峰はわざわざ無線傍受なんて手を使わないのでは」
「使わないかしら？」
　それを聞いて、こくんと首を傾げるダージリン。
「ええ、向こう側に通信アンテナを増強した車輌はありませんし、それに……」
「それに？」
「そんな姑息な手を使わなくても、正々堂々正面から我が校を潰せると思っているはずです」
　正論をあえて口に出すアッサム。
「用心に越したことはないわ」
　それを聞いて、アッサムが悪い笑みを浮かべる。
「一度、やって見たかったんでしょう？」
「何のことかしら？」
　話題をそらすように、地図を見て指示を出すダージリン。だが、その頬は少し赤い。
「それより、そろそろこの砂漠地帯を抜ける頃合いよ。おそらく、この先を曲がったら右に登り坂があるはず」
　指示を聞いてオレンジペコが質問する。
「待ち伏せの可能性は？」
「当然考えられるわね。向こうも分遣隊を送ってきたんだし、その連絡が途絶すれば、結論は明白だわ」
「そうですね」
　ダージリンの回答を聞いて、ちょっと考え込むオレンジペコ。
「では、その登り坂を使わないのですか？」
「それでは30点ね」
「30点、ですか」
　30点と言われて、ちょっと眉を寄せるオレンジペコ。将来の隊長候補のひとりとして、作戦立案能力も求められているので、どこに問題があったのか真摯に聞こうとする。
「そう、ほかにも登れるところがあれば敵も分散するし、その作戦でもいいけれど、このあたりで登れるのはここだけだから」
「では、チャーチルの正面装甲と登攀力を生かして強行突破ですか」
「そういうギャンブルをしなければならない状況ではないわね。ここはできるだけ堅実に行かないと」
「では、どのように？」
　オレンジペコが質問している間に登り坂に到着したので、操縦手のルフナが指示を待つために、車輌の速度をわずかに低下させる。
　それを感じたダージリンが、ルフナに対して、坂道を登るように指示を出す。
「作戦は、地形を味方に付けるのも重要なの。まぁ、見ていなさい」
「これでは待ち伏せのなかに真っ直ぐ突っ込んでしまいます」
　大きな声を上げるオレンジペコ。それに大きなほほ笑みを返して、地図に一瞬視線を落とすと、新たな指示を下すダージリン。
「速度そのまま。5秒後に左90度旋回」
「了解」
　ルフナが冷静に返事をする。





「3、2、1、今よ」

ダージリンの指示に従って、道の左横の崖にしか見えない斜面へと、大きく車体を曲げるルフナ。

　崖から転げ落ちる可能性に思わず恐怖し、体を硬くして主砲に掴まるオレンジペコ。しかし方向転換をした直後、一瞬宙に浮いたチャーチルの履帯はすぐにしっかりと地面に喰らい付き、やや車体が左へと傾いているものの転がることもなく進んで行く。

　オレンジペコが恐る恐るハッチから外を覗くと、チャーチルが進んでいるのは、崖の途中に穿（うが）たれた、かろうじて戦車1輌が通れる程度の横道、いや横道とも言えないほど、ほんのわずかに崖が緩やかになった場所であった。

「こんなところがあったなんて」

　驚きの声を上げるオレンジペコが、同じようにハッチから顔を出しているダージリンに質問する。

「ご存じだったんですか？」

「いいえ、地図を読んで通れると判断したの」

　それを聞いて、あわてて手元の地図に視線を落とすオレンジペコ。確かに、さっきまで登っていた道の表記、その横の右側は崖となっているが、左側は崖の記号が切れており、その間にわずかながら等高線が広くなった箇所がある。

　真剣な顔で進行方向を見て、細かい進路の指示をルフナに出しているダージリンが、その合間にあっけらかんと答えた。

「通れるって……もし」

「通れなかったら、そこで私たちは終わりだったでしょうね」

　それを聞いて沈黙するオレンジペコ。

　路面が路面なので、身を乗りだして進路を睨んだままのダージリンが、小さくつぶやく。

「本当はね、時間に余裕があれば先に偵察に出て確かめたうえ、徒歩で戦車を先導したいところよ」

「え？」

「私たちにはいろいろな物が足りないわ。戦車も砲力も、そして時間も。でもね、創意工夫をする頭と、それを実行する手足は黒森峰にも負けていないはず」

「はい」

「黒森峰の弱点は、その頭と手足のつながりの悪さよ」

　それを聞いて、怪訝な顔をするオレンジペコ。

「つながりが悪いって、どういうことですか？」

「グリーンが調べて来てくれたわ。黒森峰はね、西住流に完全に頼り切っているの」

「黒森峰イコール西住流と言うのは、周知の事実では？」

「ええ、そうね。でも奇跡の9連覇の後の昨年の準優勝、その責任を感じて将来の隊長候補だった西住みほさんが出奔したことで、頭と手足のつながりが切れてしまったのよ」

「どういうことですか？」

「今、新しい副隊長が急遽みほさんの代わりをしている。でも、完全にカバーできているわけではないわ。隊長の西住まほさんの的確な指示から、臨機応変な行動を選択できたり、指示に対し即応できる体制にはなっていないようね」

「それは仕方のないことでは……」

「情報6課が、徹底的に過去の映像を調べ上げてくれたの。去年は実にスムーズな作戦行動ができていたわ。隊員たちはつねに下される明確な指示を確実にこなしていれば、おのずと勝利が手に入る。でも、つねにあった明確な指示が突然なくなったら、隊員たちはどうなるかしら？」

　ダージリンの問い掛けに、一瞬考え込んだ後、慎重に言葉を選ぶオレンジペコ。

「……混乱する？」

「その通り。黒森峰はずっと西住流に頼り切って、その指示の通りに動けばいいと思い込んでいるのよ。それを一朝一夕で変えるのは難しい」

「……」

「それに対して大洗の強みは、各車輌が自ら考えて動いていること。あの練習試合と今までの試合を見て、それが良く分かったわ。まぁ、今回大洗は関係ないけど」

　コロコロと楽しそうに笑うダージリン。

「じゃあ、この作戦は」

「ええ、頭と手足の連携を絶ち切り、その隙に頭をワンショットキルするのよ」

「そこは一撃で倒す、でいいんじゃないでしょうか」

　オレンジペコの厳しい突っ込みに、思わず沈黙するダージリン。

　車内をしばらく沈黙とエンジン音だけが

聖グロリアーナ女学院、戦いの軌跡

聖グロリアーナ女学院×黒森峰女学園への道

最終回

支配していたが、それを破るように、ちょっとうわずったオレンジペコの声が響く。
「こんなところを通っていると、まるで去年の決勝戦みたいですね」
「ああ、雨と泥濘のせいで黒森峰の主力が混乱して、分遣隊が迂回した」
　同様に沈黙に耐えかねたのか、アッサムがあえて説明を入れてくる。それを聞いて、ダージリンがちょっとほっとしたようなわずかな笑いを声に乗せてきた。
「私たちの場合は、本隊が迂回中だけど」
「そして、相手が待ち受けるなかへと進んで行く展開まで一緒ですか」
「じゃあ、崖から落ちないように気を付けないとね。私たちは、自分の頭のハエだけを追えばいいし」
「むしろ、足元の泥に気を付けるのでは？」
　車内は再び軽口が飛び交い、リラックスした空気が流れるようになった。その間にも道は大きく右へと進路を転じ、先は崖とまではいかないが、岩に覆われた急坂になっていた。
　それを見て驚くオレンジペコ。
「これは……チャーチル以外では登れそうもありませんね」
「そうよ、このまま進めば65高地の後ろに出るわ。うまく行けば、一挙に敵の本陣を突くことができるはず」
　それを聞いて感心するオレンジペコ。
「最初からこれを狙って？」
「地図を穴が開くほど見つめて、この抜け道をようやく見つけたの」
「いや、普通ここは抜け道と言いません」
「でもね、大洗やアンツィオだったら恐らくここを使ってくるはず」
「じゃあ、黒森峰も警戒はしているのでは」
　それを聞いて、ふっと笑みを浮かべるダージリン。
「登っている最中に撃ちまくられる坂道を使うよりは、よっぽどいいわ。それに出口が一ヵ所しかない坂道と違って、ここならこの斜面のどこから上がっても自由よ」
　確かに、戦車1輌が登るのが精いっぱいの坂道に比べ、ここは戦車が10輌ぐらい並んでも余裕がある。それはどれだけ蛇行しても平気な幅があるということだ。
「選択肢が多いのは良いことですね」
「そうね、じゃあ蛇行しつつ前進！」
「了解！」
　ダージリンの前進指示にルフナが力強く答えると、チャーチルの履帯が固い地面を掴み、坂を登り始めた。
　坂の上にたどり着くや否や、双眼鏡を手にハッチから身を乗りだすダージリン。
「何とかなったわね」
「坂を上がり切る時は、さすがに冷や冷やしました」
「ふふっ、努力は報われるものよ」
　そう言いつつダージリンは双眼鏡から目は離さないで、やや硬い表情で周囲を観測している。途中まで登ってきた道の方をじっと見つめると、大きくほほ笑みを浮かべた。
「やはり待ち伏せされていたわ」
　オレンジペコも双眼鏡を覗くと、そこには2輌のパンターが、道の左右に伏せているのが見えた。あのまま坂道を登っていたら、両方から側面を撃ち抜かれていたと思うと、思わず胸をなでおろすオレンジペコ。
「まあ、当然でしょうね」
「撃ちますか？」
　アッサムが照準を覗きながら聞いてくるのに、静かに首を横に振るダージリン。
　それに対して、やや不満げな口調になるアッサム。
「今なら、2輌とも間違いなく仕留められますよ」
「その間に、伏兵に狙われるわ」
「伏兵？　どこに」
「分遣隊からの連絡が途絶している以上、黒森峰も下の砂漠地域に注目しているのは明白。となれば、あのパンター以外にも近くに伏せているはずよ」
　それを聞いて、自分も双眼鏡で周囲を観測するオレンジペコ。
「見えません」
「そんなに簡単に見つかるような場所にはいないわ。それと弾ももったいないし」
「ああ、もう残りはわずかでしたね」
「そう。だから私たちも、さっさと移動しましょう」
　ルフナに指示を出し、静かにその場を離れて、65高地へと向かうチャーチル。
　高地の麓には、大きな岩が転がっていて、戦車を隠すのに格好の場所があった。
　そこに、チャーチルを止めさせるダージリン。
　エンジンの音も絞らせると、またハッチから身を乗りだして周囲の観測を続ける。そんな状況をしばらく続けていたが、次第にダージリンの額には汗が浮かんでくる。それでも我慢をして観測するが、何も変化がないことに、いらだちを隠せないダージリン。
「まだ、発見の報告はないの？」
「ありませんね」
　焦れたように時計をちらっと見て、つぶやくダージリン。
「仕方ないわね、こちらから仕掛けるわ」
「どうするんですか？」
「マチルダ4号車に連絡、通信を繋いで」
「はい」
　通信用のマイクをダージリンに渡すオレンジペコ。
「アンナ・マリアからパフへ、パン焼き釜に火を入れて」
　ダージリンの通信に、ちょっと間があってから、マチルダ4号車からの回答が返ってくる。
『こちらパフ、パン焼き釜ですか？』
「ええ、盛大に。ただし10秒だけね」
『了解しました、デリバリーはどちらへ？』
「私のところに」
『了解です、釜に火を入れます』
「幸運を祈るわ」
『恐らく、それがたくさん必要になると思うので、私の代わりにたっぷりと祈ってください』
　そう言うと、パフからの通信が切れる。
「いったい何を？」
「まぁ、見ていなさい」
　直後、通信機にノイズが飛び込んできて、

はっとするオレンジペコ。

「通信量増大！」

「囮に食い付いたわね！　今のうちに65高地に登るわ、戦車前進！」

「マチルダ4号車が囮になったんですか」

「ええ、煙幕を焚いて走り回って貰っているの。私たちが登るのをあきらめて、出発地点に戻ったと思わせるために」

「引っ掛かりますか？」

「半々でしょうね。でも、動きがあればそれに対応しないわけには行かない。少なくとも数輌はパフの元に差し向けるでしょう？」

「それで、隊長車の警戒度が上がったりはしませんか？」

「そのための次の一手よ。私たちが勝つ方法はたったひとつ。黒森峰のフラッグ車を倒すこと」

「はい！」

「了解！」

「次の作戦に移るわ。本体の位置を完全に掴んでいないのは痛いけれど」

だが、ダージリンがマイクを取り上げるとほぼ同時に、突然の報告が飛び込んできた。

『スコーン、焼けました！』

黒森峰のフラッグ車を探すために、敵陣深く浸透していたクルセーダー1号車、そこからの待ちに待った報告であった。

「来ました！」

「全車へ通信！」

オレンジペコの弾んだ報告に、さっきまでのいらだちも忘れて、全車への一斉回線を開くように指示するダージリン。

「はいっ」

「アールグレイにお湯を注いだ、繰り返す、アールグレイにお湯を注いだ」

『了解！』

ダージリンの指示に対し、残っている全車から返事が一斉に戻って来る。

聖グロリアーナでは、アールグレイの蒸らし時間は正確に3分と決められている。ここでもやはり万が一を考えて、作戦開始時間を、紅茶の種類とその蒸らし時間によって指示することで、傍受に備えたのだった。

3分後の一斉攻撃に備えて、全車輌が攻撃準備をあわただしく開始する。

時計を睨んで、攻撃開始のカウントダウンを続けるダージリン。

「10、9、8、7、6……」

しかし、ダージリンのカウントダウンがそれ以上続くことはなかった。6まで数えたところで試合会場のあちこちから轟音が響き渡り、同時に無線機に悲鳴のような報告が飛び込んできたのだ。

「何、今の！」

『こちらパフ、黒森峰の追撃を受けています！　現在、目標地点に向けて移動中ですが、パンターの追撃を受けています！　至急、援軍を乞う！』

先ほど、囮となったパフことマチルダ4号車が追われるのは想定内であった。なので、援軍を要求する通信も、敵を引き付けるための罠であった。

だが、次の通信はまったく想定外であった。

『こちらクロテッドクリーム、周りすべてが敵です！　完全に包囲されました！』

フラッグ車へと正面三方向から突き進み、敵を分断する役割のクルセーダー2号車が、作戦開始前に発見されるとは。

一瞬あわてそうになるが、すぐに敢えて落ち着いた声で命令を下すダージリン。

「パフ、予定通りジグザグで後退、ありったけの煙幕を焚きなさい」

『パフ了解、でも追い付かれそうです！』

「クロテッドクリーム、速度を生かして振り切りなさい」

『クロテッド了解、やってみます！』

次いで、残りの車輌に指示を出す。

「サンドイッチ、全速で目標に突入！」

『サンドイッチ了解』

「スコーン、ショート・ペストリー、突入！」

『ペストリー了解！』

本来かく乱役だったショート・ペストリーことマチルダ3号車も、クルセーダー2号車の代わりに突入するように指示を出す。

『……』

「スコーン、どうしたの？　スコーン？」

しかし、黒森峰の主力位置発見を報告したスコーンことクルセーダー1号車から帰ってくるのは空電のみで、何の応答もない。

無線機をいろいろといじっていたオレンジペコだが、左右に首を振る。

「クルセーダー1号車、応答ありません」

「全速前進！　ここから進んで黒森峰の虚をつくことができれば我々の勝ち、ダメなら負けよ。行きましょう！」

全速で65高地の裏側、つまり黒森峰の本陣側から登り始めるチャーチル。

その間にも、次々と各車輌から緊急電が入ってくる。

『こちらショート・ペストリー、豹だと思ったら、でっかい虎に追い掛けられています！』

「ティーガーⅡなのね？」

『はい、それと豹が1、車種不明が1です！』

「良くやったわ！　少しでも粘って！」

『かなり厳しいですがやってみます！』

ここでティーガーⅡが動いたということは、2輌あるうちのどちらかが黒森峰の副隊長車なので、それを隊長車の近くから引き剥がした可能性が高くなった。

そうすればダージリンの狙った通り、頭と手足が分断できる。

やや笑みを浮かべるダージリン。

地図に新しい報告を加えていくオレンジペコ。少し考え込みながら、戦車の台数を数えていく。

「下で撃破したのが、パンター3、Ⅳ号駆逐戦車2、パフを追撃しているのがパンター2、ペストリーはティーガーⅡ、パンター、そして車種不明各1」

「車種不明は恐らくⅣ号駆逐かⅢ号。だとしたら、残りはフラッグ車のティーガー、ティーガーⅡ、ほかが3輌ね」

「クロテッドが包囲されているとなると、少なくとも3から4輌はいるはずですよね」

「それがティーガーⅡと、その残りかしら？」

「はい、だとしたら、今はフラッグ車が孤立していると思われます」

「そしてスコーンからの報告では、このうえにティーガーⅠ、つまりフラッグ車がいる」

ダージリンの立てた作戦は非常に単純だ。鈍足だが防御力の高いマチルダが煙幕と薪束による砂煙でかく乱しつつ、後方へ移動。その間に快速車輌が一挙に敵陣へと突入し、前方に気を取られている間に、後方からチャーチルが攻撃するというものだった。多少直前に変更があったにも関わらず、何とか無事に機能しているようで、安堵の表情を浮かべるダージリン。

「どうやら、作戦はうまく行ったようね」

「はい、あと少しで高地頂上です！」

オレンジペコの声にも喜色が混ざる。

「まだ。確実に撃破しないと」

聖グロリアーナ女学院、戦いの軌跡

聖グロリアーナ女学院×黒森峰女学園への道

最終回



気を引き締めようとしたダージリンだが、また切迫した通信が飛び込んでくる。
『こちらサンドイッチ、側面から砲撃を受けています！』
「相手は!?」
『不明、不明、数も車種も不明！』
拳を強く握り込むダージリン。
「数が合いませんわね」
「どれかがやられたのでしょうか」
「かもしれないわね」
強い意志が感じられる、きりっとした表情を浮かべるダージリン。
「ペコ、砲弾はAPCBC」
その表情のまま、低抵抗被帽付徹甲弾の装填を指示する。確かにカタログスペックだけなら、この砲弾を使えば非力なチャーチルの主砲でも、至近距離ならティーガーIの正面装甲をぎりぎり貫ける可能性がある。だが、それに対して猛然と異議を唱えるオレンジペコ。
「ここで使ったら残りは1発ですよ！ 目標の状況がつかめていませんし、もし、上にいるのがフラッグ車じゃなく、ほかの車輌だったら」
オレンジペコの抗議を一蹴するダージリン。
「そのリスクは十分承知しているわ」
「だったら、今は後ろから接近していますし、初弾は通常徹甲弾の方が」
「ティーガーIは後部でも80ミリの装甲があるのよ？ 通常徹甲弾では抜けないわ」
「！」
なおも食い下がったが、ダージリンの正論に沈黙するオレンジペコ。
「いいこと？ ここで確実に仕留めないと後がないのよ」
「……はい、分りました」
「よろしい、ではAPCBCを装填して」
「了解」
「ルフナ、坂を登り切ったと同時に左に車輌を滑らせて」
「了解」
「アッサム、左に車体後部が振れるから照準よろしくね」
「任せてください」
「よろしい、では行きます！」
65高地の上へと、勢いよく躍り出るダージリンのチャーチル。
一瞬、坂を登り切ったところでジャンプし、猛烈な衝撃とともに着地する。
その衝撃でダージリンの全身が揺さぶられるが、それを気にせず開いたままのハッチから急いで身を乗り出す。
「敵は!?」
周囲を見回すと前方の砂煙のなかから、ダージリンの視界に長大な砲身と、その後ろにある角ばった車体が飛び込んでくる。
「正面!!」
「撃ちます！」
味方が前から攻めているはずなのに、な



ぜティーガーIが後ろを向いているのかという疑問を押し殺しつつ、照準器のなかに入ったティーガーIIを狙うアッサム。
　高地へと飛び出た勢いのまま、車体後方が左へと滑って行くので、それにあわせて砲塔を左へとゆるやかに旋回させ、ティーガーIIから照準を外さないようにする。
　ルフナもアッサムが発砲するまで車体が滑るのを制御せず、直進するタイミングを見計らっている。
　一方、ティーガーIIも砲塔をチャーチルの移動にあわせて素早く旋回させ、砲塔の黒い穴までがダージリンの、そしてアッサムの視界に入って来る。
「直撃コース、来る！」
　それを確認するや否や、あわてて砲塔のなかへと体を滑り込ませるダージリン。
　同時に主砲発射の甲高い轟音が響き、直後、割れ鐘を叩いたような猛烈な音、いや衝撃がダージリンを襲った。
　瞬間的に消える車内灯。
　半開きの車長用ハッチからの光だけとなり、闇に支配される車内。
「非常灯！」
「ペコ、次弾装填急いで！」
　ダージリンの声をかき消すように、切迫したアッサムの声が響く。
「了解！」
　オレンジペコが暗闇のなか、手探りで砲弾を装填する。
　車内が暗いので、再び上部ハッチを開くと、身を乗り出すダージリン。
「危機のなかにこそ、好機はあるのよ！」
　そう叫ぶと、全速前進を命じる。
　ルフナがダージリンの意図を汲んで、やや車輌を滑らせて、車体を斜めにしたまま、ティーガーIIへと接近していく。
　152ミリにも及ぶチャーチルの正面装甲を傾斜させれば、黒森峰のフラッグ車であるティーガーIIの主砲、88ミリKwK36の至近距離からの直撃にも耐えられる可能性が高い。ドイツ戦車の通常弾である39式徹甲弾ならば、真正面から受けても余裕で防げるうえに、タングステンを使用して貫徹力を高めた40式徹甲弾ですら、運が良ければ貫通を防ぐことができる。もちろん、履帯に当たれば通常徹甲弾でもひとたまりもない。しかし、履帯破壊なら戦闘継続が可能であり、チャーチルのお守り代わりに積んでいる低抵抗被帽付徹甲弾で、ティーガーIIの装甲を貫ける可能性だってある。
　それを考えれば、恐らくティーガーIIは履帯を撃ってこないとダージリンは判断した。それに、こちらのお守りがあと一発しかないなど、向こうは知るはずもない。そんな考えが、一瞬のうちにダージリンの脳裏をよぎり、前進指示を出させた。
　ティーガーIIの装填速度は、平均して8秒から10秒程度、熟練した黒森峰の隊長車なら6秒台を叩き出してもおかしくない。実際、過去の試合でダージリンは黒森峰のティーガーIが、1分に10発も発砲したのを目撃している。しかも、そのうち8発を目標へと命中させ、7輌の戦車を一瞬にして擱座させるという恐ろしいまでの早業を。
　もちろん、オレンジペコの装填速度も負けてはいない。聖グロリアーナでのチャーチルの標準的な装填速度は毎分7発、つまり8秒半に1発だが、オレンジペコはこれを6秒以下まで縮めるように、何度も何度も装填の練習を繰り返し、努力してきた。

連載小説

聖グロリアーナ女学院 戦いの軌跡

聖グロリアーナ女学院VS黒森峰女学園への道

最終回



その結果として、体で装填作業を覚えてしまったので、今のように闇のなかでもラックに入っている砲弾の位置を間違わず、正確な装填が可能となった。

「装填完了、弾種APCBC！」

オレンジペコの声が響く。

それを聞いて、ダージリンが一か八かの命令を下す。

「車輌停止3秒前、2、1、今！」

あわてて急停止させるルフナ。

すぐには停止せず、車体後方が慣性で流れていく。

車体が止まるのをじりじりしながら待つダージリン。ほんの一瞬の時間にも関わらず、体感では猛烈に長い時間が流れているように感じる。

そして、最後にひとつ大きく揺れると、突然停止する車体。

「今よ！」

「発射！」

ダージリンの掛け声とともに、アッサムが主砲のトリガーを引く。

砲弾は真っ直ぐにティーガーIの砲塔正面装甲へと吸い込まれて行く。

固唾をのみ込むダージリン。

だが、一瞬後、砲弾は無慈悲にも正面装甲で弾かれ、あらぬ方向へと飛び去った。

「ふぅ」

静かに目を閉じるダージリン。

「どうやら、今日のパンには、バターもついていなかったみたい」

直後、チャーチルは、四方八方からの砲撃にめった打ちにされた。

『勝者、黒森峰女学園！』

砲塔から上がっている白旗を見上げるオレンジペコ。

「負けちゃいましたね」

残念そうに肩をすくめるアッサム。

「しかも、こちらはほぼ全滅」

大きくダージリンもため息をつく。

「完敗ですわね」

周囲を見渡すと、囮を追い掛けて行ったはずの黒森峰の車輌たちが、チャーチルの周囲を取り囲んで砲を向け、そして砲口からはまだ煙が立ち上っている。

「どこから読まれていたと思う？」

ダージリンが、同じようにハッチから身を乗りだしているオレンジペコに問いかける。少し首を傾げて、それに答えるオレン



ジペコ。
「作戦が、ですか？」
「ええ」
　少し考えるオレンジペコ。
　顔を上げると、真剣な表情でダージリンを見つめる。
「作戦は成功したと思います」
「え？」
　想定外の回答に虚を突かれたダージリン。
「もし、このチャーチルの主砲が17ポンド砲だったら、勝ったのは私たちだったはずです！」
　力強く答えるオレンジペコ、その顔をきょとんとした表情を浮かべて見つめ、一瞬後にほほ笑むダージリン。
「ふふっ、そうかもしれないわね」
　晴れ晴れとした表情で顔を上げるダージリン。その視線の先には、夕日に照らされたティーガーI、そしてハッチから身を乗りだしている西住まほの姿があった。
　その姿に向けて、ダージリンが大きく右手を振ると、右手をあげて綺麗な挙手の礼を返すまほ。
「この後どうします？」
「そうねえ、大洗の試合はいつだったかしら？」
　スケジュール表をめくるオレンジペコ。
「まだ少し余裕はありますね」
「相手は？」
「プラウダです」
「じゃあ、ちょっとプラウダに遊びに行ってこようかしら？」
「何をしに？」
「一杯の紅茶は、私にとってもたくさんの幸せな時間を与えてくれるのよ」

〈終わり〉





世界に負けない実力を持つ 日本のスゴイ工兵戦車たち

生産力では劣っていたものの、アイデアでは欧米にも匹敵した日本の戦車開発。ここでは、日本が製造した工兵戦車のすばらしさをご紹介します。

日本だって戦車に注目！

皆さん、寒くなってきましたがいかがお過ごしですか？

冬というと「雪の進軍」……いやいや、プラウダ高校との試合を思い出してしまう秋山優花里です。

さて、さまざまな戦車をご紹介してきたこの連載も残念ながら最終回。最後ということで今回は趣味に走らせていただき、少しディープな戦車、日本生まれの超個性派戦車をご紹介したいと思います。

戦前の日本戦車といいますと、主力の「九七式中戦車」が「M4シャーマン」どころか軽戦車「M3スチュアート」にすら撃ち負けたことから、あまり優秀な戦車がなかったというイメージがあります。

確かに技術的なハード面では独ソ米英の一流戦車に敵わなかったのですが、その設計思想や運用構想といったソフト面までが劣っていたわけではありません。いや、むしろ進んでいた部分もあるのです！

バレー部の皆さんが愛してやまない「八九式中戦車」は日本最初の量産戦車ですが、1920年代末に豆戦車ではなく、重量10トン級の戦車を主力としたのは先見の明があったと言えるのではないでしょうか？

加えて1934年には戦車を有効運用するため「独立混成第1旅団」を設立。この部隊は人員4750名、車輌約700輌を有する本格的な機械化兵団であります！ これは英露に続いて世界3番目の快挙。なんとドイツ機甲師団の設立よりも1年早いのです！

ただ戦車は歩兵支援用の「八九式中戦車」が30輌程度で、ドイツのような戦車中心ではありませんでした。とはいえ、その取り組みの速さは注目に値します。

しかし、せっかく作られた「独立混成第1旅団」は、1937年に始まった日中戦争で活躍できず、なんと解散を命じられてしまいます。これは当時の日本戦車の機動力が低かったうえに戦車が分割派遣されてしまい、その威力が発揮できなかったためでした、英仏同様、上層部が戦車を理解していなかったのですね。残念無念であります。

日本が生んだ万能マシン！

しかし日本ではこれに挫けず、その後もさまざまな戦車が開発されます。たとえば連載1回目でご紹介した『空挺戦車』も独自開発。第2回目の『水陸両用戦車』では非常に独創的な「特二式内火艇」を実用化しています。

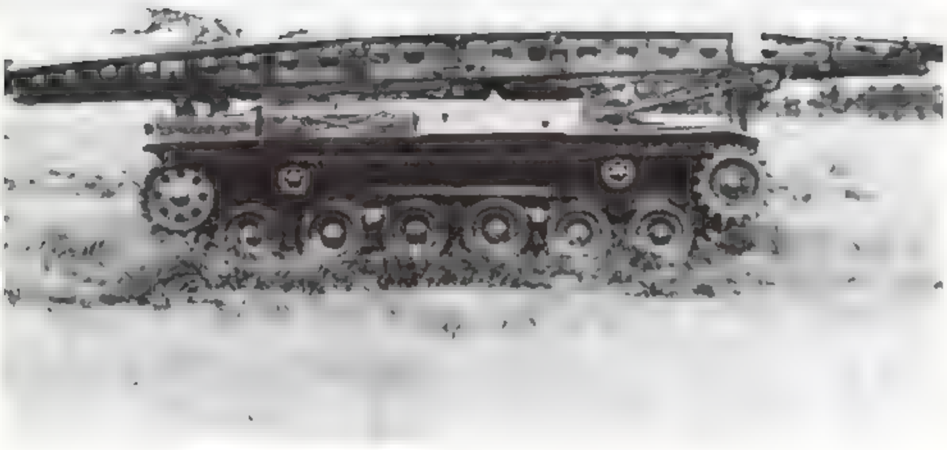
そして今回ご紹介するのが、日本で独自に発展した『工兵戦車』ファミリーです。『工兵戦車』といえば前回ご紹介した「ホバートの楽しい奴ら」が世界的に有名ですが、日本だって負けてはいません。むしろその取り組みは早かったのであります！

装甲作業機 SS

満州方面で、ソビエトとの戦闘を想定して開発された工兵車輌。おもな任務は障害物の排除やトーチカ陣地の破壊だが、さまざまな用途に対応する車輌として、1936年に仮制式化された。また、当時としては最新式の無線機を装備。1937年には、八九式中戦車と同様のディーゼルエンジンが搭載されるなど、改良が重ねられた

写真提供：吉川和篤





超壊機 TG

万能作業車であった装甲作業機SSだが、機動力が低いという欠点があった。そこで、架橋作業を専門とする超壊機 TG が開発された。車体は九七式中戦車を流用したため、機動力が増して部隊の随伴が可能となった。火薬式カタパルトの操作も車内で行うため、作業員が被弾する恐れも少なかった。だが 1943 年に試作車が 1 輌だけ製作されたものの、量産化には至らなかった

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

なんと1930年には工兵戦車の研究を開始！ 翌年には早くも試作車が完成します。これが日本初の工兵戦車「装甲作業機SS」であります！ ちなみに「SS」とは「装甲」と「作業機」のローマ字の頭文字です。この「装甲作業機」は、満州で対峙するソビエトのトーチカを破壊制圧する目的で開発がスタート！ しかし予算が少ない日本では、どうせ開発するのならさまざまな機能を持たせようとアレもコレも追加されていきます。お金は正直であります。

こうして完成した「装甲作業機SS」は重さ約12トン。「チャーチルAVRE」と同様、車体にさまざまなアタッチメントを搭載することでいろいろな任務に対応できます。

たとえば車体前面にトーチカ破壊用の爆薬を積めた箱や、障害物突破用の〝衝角〟が取り付け可能。これらで味方の進撃路を切り開くことができます。ほかにも壕を掘る鍬や地雷を掘り起こす鋤等、いろいろな道具が取り付けられました。加えて車体後方には地雷投下口が付いていて、迅速に地雷原を構築可能。そして車長用の展望塔を外せば小型クレーンを搭載できますので、いろいろな作業に使えます！ さらには火炎放射器まで搭載！ おまけに鶴の首のような形の専用クレーンを付ければ、2つ折りの橋を架けることもできました。あぁ、まさに万能マシンであります！

ただ、あまりに多くの機能を詰め込みすぎたため、使い勝手が悪くなってしまったそうです。

とはいえ「装甲作業機」は、ほかには代え難い工兵車輌でしたので、改良型を含め130輌近い車輌を生産。改良型には登場順に甲、乙、丙、丁、戊というバージョン名が付けられていました。とっても日本らしいですよね。

この「装甲作業機」は実戦にも参加。中国大陸のほか、1944年にフィリピンへ送られたそうですが、第一線で戦車とともに使われることはなかったそうです。

多彩な日本の工兵戦車たち

この「装甲作業機」以外にも日本はさまざまな『工兵戦車』を開発しています。まずは「超壊機 TG」。この車輌はいわゆる『戦車橋』で、戦車が超えられない川や戦車壕に橋を通す車輌です。

この「超壊機」は「チャーチル架橋戦車」と同じように鉄橋を車体上部に搭載しているのですが、画期的だったのは架橋方法。なんと火薬カタパルトで橋を飛ばします！

「装甲作業機」も橋を架けられるのですが、こちらはクレーンを使うので時間がかかります。しかし「超壊機」はカタパルトでドーンと橋を射出するので短時間に架橋できるのです。ちょっと乱暴にも見えますが、なかなかのアイデアですね。

川や壕と並び戦車に大敵なのが地雷原。これを一挙に排除する「地雷作業車 GS」も開発されました。これは専用車輌ではなく「九七式中戦車」の車体後部に8基のロケットを搭載。ロケットが地雷原まで爆薬を引っ張りながら飛んでいき、一挙に地雷を爆破し通路を開設しようというアイデア。この方法は現在の自衛隊でも使われているのであります。

また変わった車輌として「九五式装甲軌道車」というのもありました。

この車輌はなんと鉄道のレールの上を走る鉄輪と不整地を走る履帯を両方持っているほかに、類を見ない独創的な戦車。装甲列車は世界中で作られましたが、レールを降りた後、そのまま履帯で走ることができたのは「九五式装甲軌道車」ぐらいでしょう。

なんといってもこの車輌のすごいところは、鉄輪の横間隔が変更可能なことでした。ドイツがソビエトに攻め込んだ時、列車のレールの幅が違うので大変苦労した話は有名ですが、「九五式装甲軌道車」ならへっちゃら。狭軌の日本から国際標準軌の中国、そしてソビエト特有の広軌まですべてに対応可能！ 世界中どこでも使える車輌でした。

ほかにも全周クレーンを積んだ「九五式野戦力作車」、通称リキ。湿原地帯を進むため、ゴムの浮き袋で履帯を作った「湿地車FB」。無人で動く「無線操縦戦車」などもさまざまな工兵戦車が日本では開発されていたのであります！ まさに特殊戦車王国の日本であります！

イカしたコンビ車両

個性派揃いの日本工兵戦車の中で、極めつけが「伐開機&伐掃機」のコンビであります。この車輌はシベリアの大森林地帯を迅速に突き進むためだけに作られた専用車輌。日本はソビエトとの戦いを本気で考えていたのですね。

コンビの主役「伐開機」、秘匿名「ホK」は、車輌の前面にイカの頭のような三角形の突角を装備したとても格好いい工兵戦車。この角を上下に動かしながら森に突進！ 樹木をなぎ倒しながら迅速に通路を開く斬新かつ強引な車輌です。その行動様式から当初はイノシシにたとえられ「亥号機」とも呼ばれたとか。

倒す木に負けないよう、車体は重量15トンの「九七式中戦車」がベースになっていますが、注目すべきはその内部。なんと地図のない原生林の中で道に迷わないように「自己経路機」を装備していました。GPSのない時代ですので車の速度を計算しつつ、



伐開機

森林地帯での運用を目的とした特殊車輌。足回りや車体は九七式中戦車をベースにしているが、上部構造は新設計となっている。試験車は 1941 年に完成。その後、研究を重ねて 1943 年に 2 号車が製作された。最終的には、数輌が生産されたという資料もあるが、正確なことは不明である

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）



湿地車

対ソビエト戦用に湿地帯を突破して、奇襲作戦を行うために開発された特殊車輌。「FB器」とも呼ばれている。重量は約5トンで、幅の広い履帯にはゴム製の浮き袋を装着。車体後部には、水上での移動用にプロペラが装備されている。水上での移動速度は、約4～5ノット。方向転換は、プロペラの向きを変えることで行った

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

ジャイロコンパスと羅針盤を利用して自分の進んだ方向を紙に記録していきます。いやはや当時のハイテクの結晶であります！

相棒の「伐掃機」の方は「伐開機」が倒した樹木を片付けるため、2つのクレーンを搭載。加えて前方のウインチで倒木を引っ張ることもできます。

おまけに発電機も積んでいるので電動ノコギリを使って、しつこい木の根もすっきり除去！ 実に細かいところまで考えられたシステムであります。

この能力を活かそうと飛行場開設のために南太平洋のラバウルなどに送られましたが、南洋のヤシの木はシベリアのタイガ地帯に生える針葉樹よりも堅く、うまく使えなかったそうです。

またコンビといえば「九七式延線車&植柱作業車」も忘れてはいけません。この車輌は前線と後方の司令部を有線通信で結ぶための専用車輌。「延線車」に積まれた糸巻き機から味方の前進に合わせ電信線を敷設。相棒の「植柱作業車」が地中にドリルで穴を開け電柱を立て架線していきます。ドリルは凍った地面にも穴を開けることができる高性能品。ただ電柱を立てたり電線を架けるのは手作業だったそうです。

このペアを使えば毎時2キロメートルで有線ケーブルを敷設可能。司令部同士は敵に傍受される危険のある無線よりも有線の方が安心です。

このように日本の工兵戦車はシステマチックでよく考えられた優れものばかりでありました。

日本戦車の憂鬱

このようにさまざまな『工兵戦車』を実用化していった日本。しかし、この種類が多いということは欠点でもあります。

ドイツがさまざまな種類の戦車を作ったせいで生産現場が混乱し、種類を絞ったアメリカとソビエトに数で押されたことを思い出せば、より国力が劣った日本が多種多彩な工兵戦車を作るのは無理がありました。

しかも設計が凝っていて、「伐開機」は「九七式中戦車」が、「延線&植柱ペア」は日本の豆戦車「九四式軽装甲車」の足回りがベースですが、車体は別設計。「装甲作業機」や「リキ車」にいたっては転輪や履帯から設計し直していて、ほぼオリジナルとなっています。

ホバート殿が既存の戦車を改造したのと対照的に手間をかけ過ぎです。なぜ、こんなことになってしまったのでしょうか？

それは恐るべき「縦割り行政」の障害であります。

戦車を開発するのは陸軍第4研究所。工兵の装備は第3研究所の担当でしたのでまったく別組織。予算も別枠なのでバラバラに研究開発に打ち込み、連携するどころか縄張り争いが熾烈でした。

たとえば日本の工兵戦車は自衛用の機関銃すら付けることができません。機関銃を搭載すると『装甲車』になってしまうので横やりが入ってしまうのです。ですので戦車ではなく「機」と付く車輌が多かったわけであります。

その結果、万能工作マシン「装甲作業機」は機関銃の代わりに自衛用の火炎放射器を装備。レールを走る「九五式装甲軌道車」は、機関銃用の銃眼だけが開けてあり、乗り込む工兵が手持ちの小銃や機関銃を撃つ予定でした。縄張り争いはどこの国でもありましたが、ちょっとこれは行き過ぎでした。

日本工兵戦車の独創性をみると、皆が一致団結して知恵と労力を結集すれば、「M4シャーマン」に対抗できたと言われる「四式中戦車」がもっと早く実用化できていたのではないかと思ってしまいます。逆に言えば、縄張り内では自由にやれたおかげで、こんなに素敵な工兵戦車たちが生まれたと言えるのですが。

アメリカやソビエトが多少の使い勝手の悪さを無視して、誰でも使えるシンプルな単一装備を目指したのとは逆に、汎用品ではなく一品もの、目的にベストマッチな高機能品を作ってしまうのは日本人の性格なのかもしれません。

しかし、その設計思想の斬新さと組織的な運用構想は「ホバートの楽しい奴ら」に勝るとも劣らない素晴らしい工兵戦車たちばかり。昔の日本は物真似ばかりと言われていましたが、このようにオリジナリティあふれる開発にしっかりと取り組んでいたからこそ、現在の工業大国の姿があるのではないでしょうか？

いかがでしたでしょうか？とっても個性的で味わい深い日本の工兵戦車の歴史と魅力、ご理解いただけましたでしょうか？

それではまた、いつかどこかでお会いしましょう！

水戸藩が作った日本最古の戦車

幕末の頃、水戸藩では外国人が海岸に上陸する事件が起きていた。そこで、水戸藩の徳川斉昭の命により作られたのが、日本最古の戦車「安神車」である。最初に作られた安神車（1号車）は三角屋根がついた鉄製の箱型で、銃眼を前と左右の3ヶ所に配置。鎧をつけた牛に引かせて移動した。しかし内部が狭く、火縄銃をうまく取り扱えないこともあり、改良した2号車を製造。鉄板の囲みが八角形へと変更されたため、内部が広くなった。また銃眼も前後左右に配置され、傾斜した装甲は被弾経始にも優れていた。さらに用便のため、床に蓋付きの穴を空けるなどの工夫が凝らされた。ただし、実戦に投入されることはなく、水戸東照宮に寄贈された。



安神車の姿を伝える貴重な写真。手前の三角屋根が1号車で、後ろが2号車である。だが戦災のため、1号車の台座は焼失。2号車も一部が失われた



2号車は、後部のトビラから1名が搭乗。天井にはガラスに仕込んだ磁石をはめて、外を見なくても方向がわかるよう工夫された



水戸東照宮
〒310-0015 茨城県水戸市宮町2-5-13
JR「水戸駅」北口より徒歩10分
境内の保管庫内に保存中。窓越しに見学できます。撮影も可能（フラッシュの使用不可）


大日本大工夫帝国
足ラヌ足ラヌハ工夫ノシスギ
正面も座金いっぱい。
比較的プレーンな状態の装甲作業機(丁型)。
これにいろいろくっつけて使う訳です。
万能作業機と呼んで下さい
2つ折りの超壕機を装備した甲型
装甲作業機
二折鶴首式という。
地雷除去用の爪
☆タテ割りお役所仕事というべきか、職人的一品モノというべきか、日本軍は「あったらいいかも？」戦車を沢山開発している。
遠くを高い所から見る戦車。
野戦展望車、というらしい。
今回もいろいろありすぎて
紹介しきれません！
九五式野戦力作車(リキ)
戦前の科学雑誌みたいだが、実在した。戊型。
ビジュアル的に外せない。
工兵の作業用に3t起重機を装備している。
この足まわりも何かの流用という訳ではない。
湿地車
満洲の湿地帯を走りまわれるように開発された。
履帯には浮嚢(ふのう)がつけられ、水上でも進めるのだ。
誰にも相談しないで、それぞれ作りあげられた感がある…カンブリア的な？
アノマロカリスみたいです
九七式植柱作業車&九七式延線車
野戦電信用の電柱を立てる戦車&電線を張る戦車という特殊ぶり。ただ人力ではスピードも遅く労力もかかる…確かに必要だ！
動力を供給し、資材も運ぶ。
ベースは軽戦車
迷彩少しヘンテコ？
ダボボ
※日本の戦車の場合、残された写真が敗戦後米軍撮影の「死んだ」モノが主になってしまう。実際どうやって使われたのかよくわからないことが多い。
・この植柱車も、ひみつマシンみたいに自動で立てながら走ったとは考えられないですね。
このイラストは全くの想像図です。
という訳で全6回、御愛読感謝です。
ここに電柱を積むらしい。
進むスピードと電線を繰り出すスピードを合わせるのが難しかったらしい。
作業用ハシゴが立つ
それではまたどこかでお会いしましょう！！
電柱、電線は10キロ分積載(70mごとに立てるから140本ぐらい？かなり多い…)
トラックでは行けない所も、無限軌道ならなんとか！



大洗女子チームの「日常」

ORDINARY DAYS OF Oarai girls' high school

第六話「集合です！」

「あの、私、こういうところに来るの、初めてなんだけど……」

おずおずと室内に入るみほ。

「私も初めてです。中はこんな風になってるんですねー」

優花里は好奇心で目を輝かせ、周囲をキョロキョロ見回している。

「さ、みんな座って座って！」

「ええ。飲み物を注文しないといけないんですよね？」

「そそ。ワンドリンクね」

あとから入ってきた沙織と華が、ソファーに腰を下ろしつつ言う。

「このソファーは……座り心地がいい……すーっ……すーっ……」

そして麻子は、ソファーに座るなり眠りについた。

「ちょっと麻子ー、起きなさいよ！せっかくひさしぶりにカラオケボックス来てるのに、寝るのもったいないとか思わないの？」

「あはは……」

言いつつ麻子を揺さぶる沙織。その光景を見ているみほは、苦笑いである。

× × ×

戦車道全国大会が終わった。

見事に優勝を果たした大洗女子学園戦車道チームは、その後しばらくの間、勝利に酔いしれた。お祭り好きで名高い角谷杏の主導で優勝パレードや祝勝会、そのほか、もろもろの記念・祝賀イベントが行われた。

しかし、さすがに延々とお祭り騒ぎを続けることはできない。

祭りは、いつか終わるのだ。

優勝決定から10日あまりすぎた頃には、彼女達の暮らしに日常が――本当の意味での日常が戻っていた。

そんなある日、沙織があんこうチームの面々をカラオケに誘った。

「いままで練習ばっかりで遊びに行く時間あんまりなかったし、みんなで行こうよ！」

この誘いをみほ達が断るはずもなく、一同はカラオケボックスに行くことになったのだった。

× × ×

「ところで、やけに広いですねこの部屋。これだけの収容力があれば、ここに戦車道チームを全員集めて、ブリーフィングができそうです」

「カラオケボックスって、こんなに大きい部屋で歌うものなの？」

優花里とみほが不思議に思うくらい、その部屋は広い。軽く30人は座れそうだ。

「ううん、普通はもっと狭い部屋なんだけど、今日はほかにも声かけてるから。じきにみんな来ると思うよ」

「あら、いつの間に」

「ここまで来る途中、みんなにメール送ったの。カフオケ行くから、時間あるなら 緒にどう？って」

華の疑問に、事もなげに答える沙織。そんなわけで、沙織が確保したこの部屋はパーティールームなのだ。

「さすが武部殿、いつの間にか連絡をしていたんですね。やはり武部殿は、携帯メールの達人です」

優花里が沙織を尊敬のまなざしで見つめていると、部屋の扉が開いた。

「やーやー、お招きありがとう」

「カラオケ、ひさしぶりだわ」

「あ、会長と小山先輩！来てくれたんですね。どうぞ座ってください」



全国大会が終わったある日、あんこうチーム一同は、カラオケを楽しむことに。沙織が声を掛けて全チームが集まるなか みんなが語り合うことは、やはり戦車の話題であった。



沙織に促され、角谷杏と小山柚子が着席する。

「おまえら、校外だからといってあまりはしゃぎすぎるなよ！」

ひと間あって、憮然とした表情の河嶋桃も入室して座った。

「みんなもう、飲み物注文したの？」

「いえ、私達もさっき来たばかりで」

柚子の問いに華が答える。

「じゃ、オレンジジュースでいいよね？」

入口脇にある、フロントに通じるインターホンの受話器を持ち上げ、速やかにオーダーする柚子。

「お菓子も適当に頼んでおいたわ。みんなで食べましょ♪」

「さすが小山先輩……」

おっとりしているようで実はテキパキと事を進める柚子の能力の高さを、みほはすでに知っている。知っているが、目の当たりにするとやはり感心せざるを得ない。

「さー、人数も増えてきたし、そろそろ誰か歌う？　カラオケ初体験のみぽりん、どう？」

沙織がみほに水を向けるが、

「え!? わ、私はちょっと……歌は、音楽の授業でしか歌ったことないし、恥ずかしいし……私は、みんなが歌うのを聴くほうがいいな……」

頬を染め、俯き気味で答えるみほ。

「無理に歌わなくてもいいと思いますよ。ほかの人の歌を聴きながら、おやつを食べたり飲み物を飲んだりするのも、カラオケボックスの楽しみ方ですし」

優しくほほ笑みながら、華が言う。

「河嶋、とりあえず何か歌っといて」

「え!?」

藪から棒に言う杏に、肝を潰す桃。

「そりゃそうだよ、だってカラオケボックスだもん。誰か歌わないと」

「は、はあ……わかりました」

杏の指令に従い、桃はカラオケの装置に曲番号を入力し、マイクを握って立ち上がった。

「カラオケってさー、歌いたい曲選ぶのがけっこう時間かかるよね」

「あー、それわかります！　私も歌いたい曲たくさんあって、いつもどれから歌おうか迷っちゃうんですよ！」

杏に同意する沙織。その間に、桃が歌う曲のイントロが流れ始める。

「というわけで河嶋ー、みんなが曲を選ぶまでつないで。どんどん曲入れてジャンジャン歌っていいよ」

「えええええ!?」

たった今「曲選びには時間がかかる」ということを、さも一般論のように話していたのだが、桃だけは杏の論理に含まれていないらしい。

「失礼します！」

ふたたび、入口のドアが開く。

「あ、バレー部の皆さん！」

気付いたみほが入口に目をやると、そこにはバレー部の面々がいた。

「武部さんが誘ってくれたので、練習を早めに切り上げてきました！」

チームリーダーであり、バレー部のキャプテンでもある磯辺典子が力強く言う。

「時間は短くなりましたけど、その分いつもよりハードに練習してきました！」

「でも、カラオケが終わったらまた体育館に戻ります。1日サボると取り戻すのに3日かかりますからね」

近藤妙子が元気よく言い、河西忍が充実の表情で続けた。

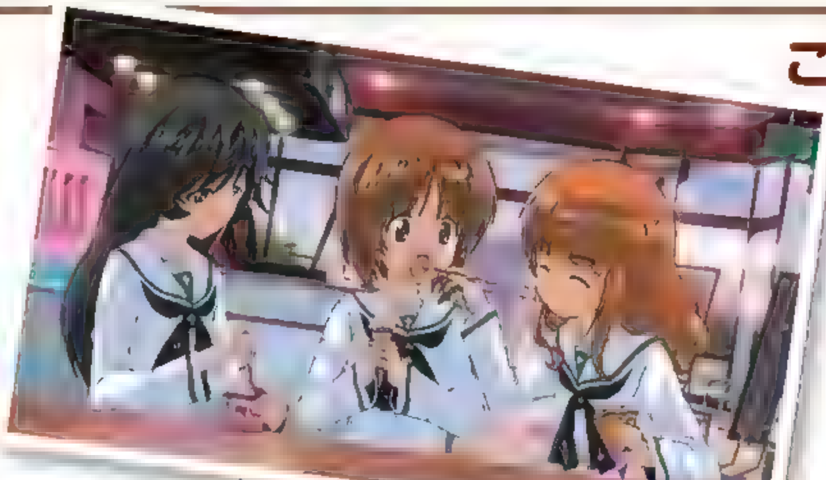
「カラオケって、肺活量アップしそう

「恥ずかしいし……私は、みんなが歌うのを聴くほうがいいな……」



ですよね。バレーにも役立つかも知れませんね」
　佐々木あけびが柔和に言うと、
「その通りだ！　今日はカラオケを通じて基礎体力と根性を磨くぞ！」
「はいっ！」
　我が意を得たりと言わんばかりに磯辺が返し、それに呼応してほかの3人がビシッと声を揃えた。
「どこでも変わりませんねぇ、バレー部の皆さんは」
「うん」
　その光景を優花里とみほが楽しげに見ていると、店員がドリンクとお菓子を持ってきた。
「バレー部のみんなも、飲み物はオレンジジュースでいい？」
「ウーロン茶でお願いします！」
「あ、私達はオレンジジュースで」
　柚子が訊ねると、磯辺の返事に加えてもうひとつ、声が返ってきた。
「お邪魔しまーす」
　一年生、ウサギさんチームの六人がぞろぞろと入室する。
「武部先輩、誘ってくれてありがとうございます」
「カラオケ楽しみ〜！」
　リーダー、澤梓がまずは沙織に礼を言い、山郷あゆみは目を輝かせている。
「アニソンを歌いまくるぞー！」
「桂利奈ちゃん、いつもアニメソングだよね〜」
　阪口桂利奈はすでに臨戦態勢の顔で、宇津木優季はおっとり相づち。
「ほら、今日は紗希ちゃんも歌おうよ。せっかくみんなで集まってるんだし」
「……」
　丸山紗希に歌を要求する大野あやだが、紗希は無言でソファーに座る。
「みんな、来てくれてありがとう♪」
　沙織が感謝を述べる。
「一気ににぎやかになりましたね」
　華の言う通りで、人数が増えたおかげで広い室内も徐々に埋まりつつある。そして河嶋桃は先程から、律儀に誠実に杏の指令を守り、熱唱を続けている。ただ、もったいないことにその歌声に注意を傾けて聴いている者は、あまり多くはないようだ。
「ていうか……この状況でよく寝てられるわね」
「すーっ……すーっ……」
　やや呆れ気味につぶやく沙織の視線の先、ソファーに座ったまま目を閉じて、麻子が寝息を立てている。
「入らせて貰うぞ」
「おお！　カエサル殿！」
　カエサルの声とともにやって来たのは、カバさんチームだった。優花里が喜びの声で迎え、4人は入室しソファーに腰を下ろす。
「戦国時代においても、合戦といえば歌がつきものだ」
　したり顔で言う左衛門佐。
「それは歌でも連歌会、歌唱ではなく和歌ぜよ」
　サラッと、ツッコミを入れるおりょう。
「歌うとなれば出陣前の軍歌だろう。あるいは行進歌だな」
　それを受けて、別の切り口からつなげるエルヴィン。
「「「それだ！」」」
　残る3人が、揃って声を上げる。
　カバさんチームのいつものやりとりをほほ笑ましく見る優花里。すると続いて、
「いやー、けっこう集まってるなー」
　レオポンさんチーム、自動車部のメンバーが部屋に入ってきた。
「先週から手を付けていた旧車の整備が終わったんで、来てみました」
　ナカジマがていねいに言うと、
「けっこうな手間だったね、今回は」
　ホシノは額の汗を手の甲でぬぐいつつ、しかしやり遂げた達成感の表情である。
「でも、手の掛かる子ほどかわいいって言うし」
　スズキが、ほほ笑みつつ言葉をつなぐ。
「あー、早く走らせたいなー！　でも今日はとりあえず、カラオケだね！」
　ハンドルを切るような仕草から、マイクを握るような仕草に切り替えて、楽しげに言うツチヤ。
「皆さん、お疲れ様です」
「飲み物は何がいいかな？」
「私達はコーラで」
　みほがねぎらい、柚子がドリンクを訊ねつつ、4人が着席。その直後、さらに3人の人影がするりと、室内に入ってきた。
「う、歌は自信ないんだけど……呼んで貰えたのはうれしいので……」
　アリクイさんチームのねこにゃーが、胸の前でこねこねと指先を合わせながら、猫背で立っている。
「大丈夫ナリよ！　ねこにゃーさんはネットカラオケで高得点を叩き出してるの、知ってるナリよ！」
「しかもアレ、けっこうマイナーで難しい歌だっちゃ。普通の歌なら余裕でハイスコアっちゃ！」
　隣で励ますももがーとぴよたん。
「で、でも人前で歌うのと家でひとりで歌うのは全然違うし……」
　励ましを受けてもひたすら弱気で、静かに席に着くねこにゃーだった。

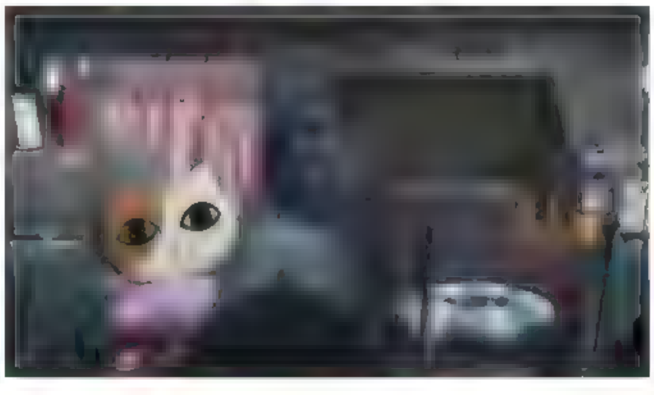
こんなこともありました【生活編】





新鮮な体験！戦車の飾り付け

西住流の戦車道しか知らなかったみほは、自由な発想で戦車をデコレートする沙織たちにびっくり。車内にクッションや芳香剤を飾られた光景は初めてで、戦車道が楽しいと思い始めるきっかけとなった



心細いみほを二人がサポート

転校したてのみほにとって、最初に声をかけてきた沙織や華は、大洗女子で初めての友達。生徒会から戦車道の履修を迫られた際、かばってくれる2人のためにと、再び戦車への搭乗を決心した

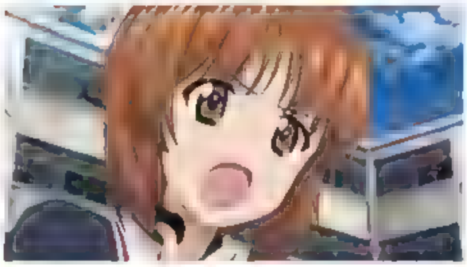




あんなこともありました【試合編】

まほも認めたみほの戦車道

大洗女子の仲間と助け合いながら、ついに姉のまほとの一騎打ちを制したみほ。試合後、まほは素直に負けを認めて、妹に「すばらしい戦いだったな」と手を差し出す。それはまほが、みほの見つけた新たな戦車道を認めた瞬間でもあった











チームの士気を高めたあんこう踊り

準決勝ではプラウダ高校の戦車隊に包囲されたうえ、負ければ廃校という事実を知って意気消沈する大洗女子メンバー。そこでみほは、率先してあんこう踊りを踊って一同を鼓舞。大洗女子メンバー全員の気持ちをひとつにして、最後まで戦い抜く気力とモチベーションを取り戻した

ちなみにこの間も、桃の熱唱は続いている。ほかの一同はそれぞれ楽しげにおしゃべりをしながら、お菓子を食べ飲み物を飲んでいる。パーティールームはいまや、ほぼ満席になっていた。宴もたけなわ――という言葉が、しっくりくる空気である。

そこに、満を持しておかっぱ髪の少女が入ってきた。

「あなた達！ 高校生ともあろうものが、こんなところにたむろしていいと思ってるの!?」

風紀委員、園みどり子である。

「やめようよそど子、こんな時まで」

「そうだよ、せっかくみんな集まってるんだし、そもそも、ここ学校じゃないし……」

そど子の後ろから、ゴモヨこと後藤モヨ子と、パゾ美こと金春希美がたしなめる。しかし、

「何甘いこと言ってるのよ2人とも！ 学校の外は誘惑だらけなんだから！ 学校じゃないからこそ、強く風紀を意識すべきなのよ！ みんな、ここから出て早く家に帰りなさい！」

そど子の態度はまったくもっていつも通りで、何の変化もない。

「あなたの言うとおりだと思うわ」

柚子がそど子に同意する。

「少しはわかっているようね」

「ええ。でも、風紀委員さんが身近にいてくれれば、私達みんな道を外れることはないと思うの」

「ええそうよ。私達がいれば、おかしなことにはならないわ」

「だからね、ここに座って、ジュースを飲んで、お菓子を食べながら、私達のことを見張ってて貰えないかな？」

「まったく、手の掛かる人達ね。私が監視してあげるから、感謝することね！」

何だかんだ言いながら結局、柚子のペースに乗せられてソファーに腰を下ろすそど子であった。

× × ×

「すごいね、全員集まっちゃった」

まぶしげに目を細めて、室内を見渡すみほ。一同、引き続き飲食しつつにぎやかに歓談している。

「声をかけた、武部殿の人徳ですよ」

「ええ、人と接する時に垣根がないのが、沙織さんの良いところですね」

「いやいや、みんなのノリがいいおかげだと思うよ」

優花里と華にストレートに褒められ、照れる沙織。

「恥ずかしがることはない。沙織の数少ない長所だからな」

「数少ないってどーゆーこと!? ていうか麻子、あんたいつ起きたの？」

まだ眠そうにしてはいるが、いつの間にか麻子が目を覚ましていた。

「か、会長……さすがにそろそろ誰かと交代したいのですが……」

そしてこちらもいつの間にか、十曲あまりを歌い上げた桃が、疲労困憊の様子で杏に懇願していた。

「お、かーしま、お疲れー。んじゃ誰か、歌いたい子いるー？」

杏が声をかけると歓談が止まり、室内が静かになった。しかし、誰からも返事がない。

「こういう時ってみんな、遠慮しちゃうものですから……」

柚子が言う。

「あのー、歌でもいいんですけど」

声を上げたのは、梓だった。

「さっき私達で話してたんですけど、せっかく全員集まってるし、全員いないとできないことをしたほうがいいかなって」

「カラオケは、全員じゃなくてもいけますし」

梓の言葉を、あやが補う。

「我々も同じことを考えていた」

「ああ。ここにいるのは大洗女子学園戦車道チームのフルメンバーだぜよ」

「となると……カラオケもいいが、ほかにやることが、あるのではないか」

エルヴィン、おりょう、カエサル、左衛門佐がこう言うと、

「つまりそれは、戦車道ですね！」

歓喜の声を上げる優花里。

「私達もまだまだ、身体を動かしたいと思っていました！ みんなもそうだよな？」

「「はいキャプテン！」」

バレー部の面々も、心はひとつにまとまっているようだ。

「本物の戦車、ボク達はまだまだプレイ時間が足りてないから……もし乗れるなら、うれしいな……」

「そうナリね！」

「だっちゃ！」

アリクイさんチームは決勝戦だけの参加なので、当然の心境だろう。

「戦車の整備もマメにやっとかないと、腕がなまっちゃうもんね」

「クルマとは全然違うからね」

「運転も、クルマとは違う楽しさがあるし」

「それこそ砲撃なんて、クルマじゃ味わえないからね！」

ナカジマ、スズキ、ツチヤ、ホシノも賛成する。

「最初からこんな不謹慎な場所に来ず、必修選択科目でもある戦車道の自習をやっていればよかったのよ」

さすがのそど子も、これには異論はないらしい。

「じゃ、カラオケはこのへんで切り上げて、みんなで学校行くか！」

「はーい！」

杏が締めると、気持ちよく一斉に声が返ってきた。

全員が一カ所に集まったことで、戦車に乗りたいという気持ちが高まった結果なのかも知れない。だがそれにしても、大洗女子学園戦車道チーム各員の心は、全国大会を通じてひとつにまとまっていたのだろう。

× × ×

カラオケボックスから学校に向かう道すがら、

「楽しいな。みんなと一緒に、戦車に乗れて」

最後尾から前を歩く一同を見つつ、みほがつぶやいた。

隣には杏がいた。

「全国大会、終わったのにねー」

「お祭り騒ぎも弾切れで、ちょっと寂しくなるかなーって思ってたけど、そんなことないみたいだね」

「ええ、全然寂しくないです。とても楽しいです！」

みほは満面の笑みで、杏に答えた。

お祭りには終わりが来るが、日常に終わりはない。その、みほ達の日常に、戦車道が加わっていた

〈終わり〉

語る KATARU

第6回 アリクイさんチーム＆レオポンさんチーム



I ♥ PANZER 大洗女子チームメンバー 戦車愛を

SENSYA AIWO



アリクイさんチーム

オンライン戦車ゲームの仲間３人で結成されたチーム。三式中戦車を使用する。初めての試合が全国大会の決勝戦のためか、序盤で撃破されてしまった



レオポンさんチーム

自動車部に所属する、部員４人のチーム。準決勝までは、各チームの戦車を整備していた。その後ポルシェティーガーの発見で、急遽チームを結成した

全国大会決勝戦で、試合初参加となったアリクイさんチームとレオポンさんチーム。今回は、初めて試合を体験した2チームにお話を伺いました。



「よくフラッグ車を守ったとか言われても、困るもも」

ももがー
大洗女子学園 1年
〈普通科〉
桃をかたどった眼帯をつけた操縦手。本物の戦車操縦は初心者レベル



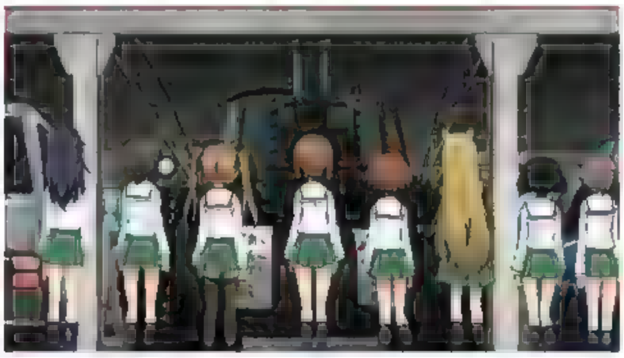
ねこにゃー
大洗女子学園 2年
〈普通科〉
腰が低い、車長兼通信手。メガネを取ると、意外と美人である

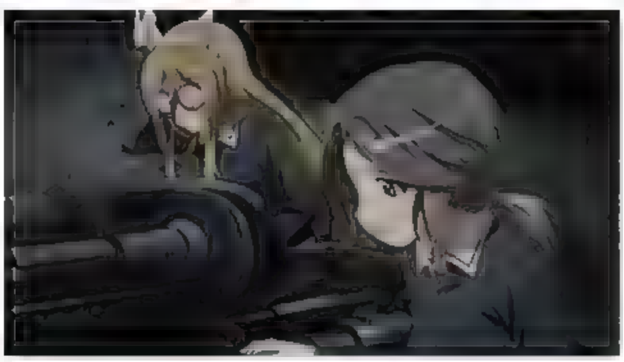




ぴよたん
大洗女子学園 3年
〈普通科〉
砲手兼装填手。その実力を発揮するまもなく、決勝戦を終えてしまった







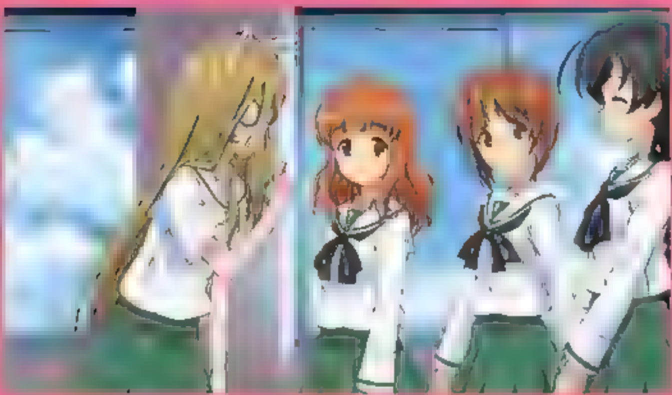
自動車部員の戦車整備録

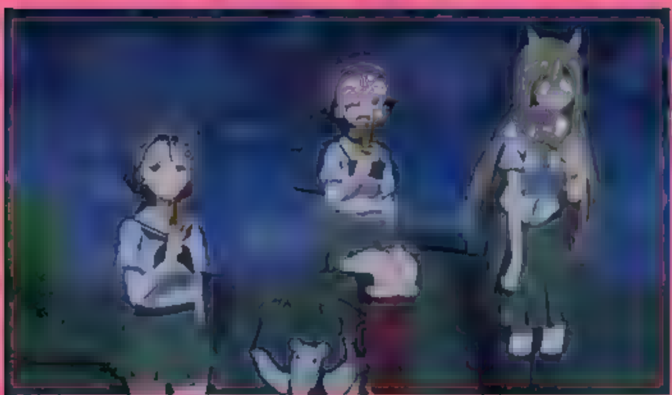
アリクイさんチームの車輌か、いやーまさか駐車場に置いてあるなんて思わなかったよね。ま、外にあるとはいえ、屋根付きの場所だったし、思ったほど悪い状態ではなかったよ。でも、エンジンは一回全部ばらして、圧縮比とか噴射タイミングとかいろいろ調整して、出力はかなり上げたなー。とくにトルクは太くする必要があるし、あとトランスミッションやクラッチ、サスペンションもがっつり調整したよ。それと無線機とバッテリーも完全交換だったな。でも、時間があんまりなかったから、操作性の向上はあまりできなかったのが残念。本当は、主砲の発射装置もちゃんと砲手が操作できるようにいじりたかったし、水平鎖栓も何とかしたかったんだけどね。それでも、砲塔旋回装置の電動機はちょっとだけ手を入れたよ。あと、砲弾ラックが木製だったのは驚いたな～。乗員が3人しかいないって言うから、即応弾を置く位置とか、多少変えたかな。

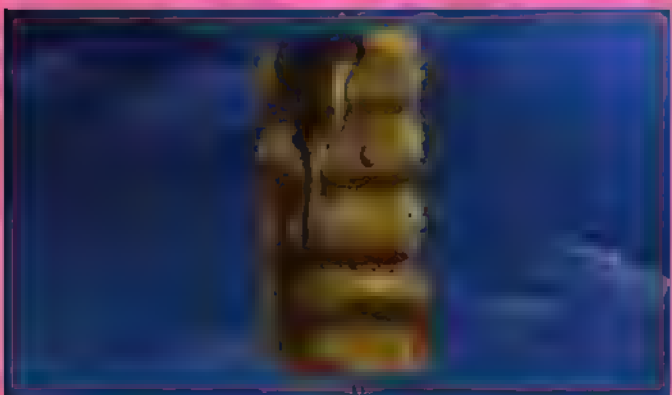


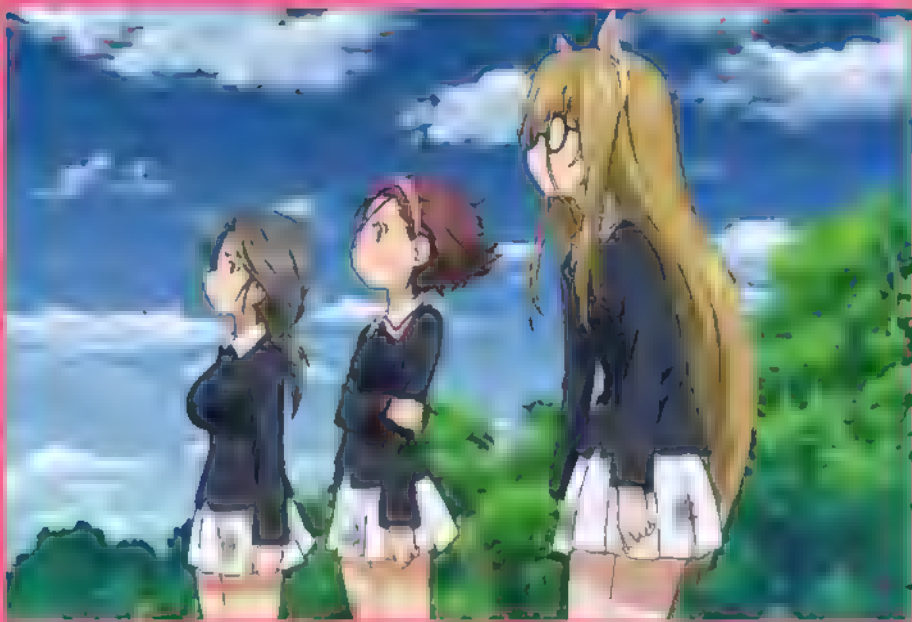
大洗女子学園 3年
自動車部所属 ナカジマ談

ね「僕たちにイ[illegible]ヒュー、え、どう[illegible]よ[illegible]困っ[illegible]たにゃー」
もも「なになに、[illegible]ムについて」
ぴよ「それなら何[illegible]話すぴよ」
ね「違う違う、[illegible]戦車に関してだにゃ」
もも「現実の戦車[illegible]ても難しかったっちゃ」
ぴよ「何で三式っ[illegible]んな主砲になってるんだぴよ」
ね「うん、全然[illegible]られなかったし、あれ、何か悲しくな[illegible]きたにゃー」
もも「よくフラッ[illegible]を守ったとか言われても困るもも」
ぴよ「一発もまと[illegible]撃てなかったべし」
ね「そんなのだ[illegible]て、語ることないじゃないの[illegible]にゃ――」
もも「そうだもも[illegible]――」
ぴよ「帰るっちゃ」













リアルでは全員初顔合わせ

ネット内では頻繁に連絡を取り合っていた3人だが、現実に顔を合わせるのは大会決勝戦前が初めてであった。だが、ネット内で交流を深めていた3人は、すぐに意気投合。初めて本物の戦車を動かすよろこびもあり、決勝戦での勝利を目指して、練習に励むのだった







全国大会時

三式中戦車



発見時

慣れない操縦に大苦戦

決勝戦では、戦車ネットゲームで培った操縦技術を見せようとしたももがーだったが、ギヤが重くて思うように変速できず苦戦。間違って、後進させてしまった。ところが、この偶然がフラッグ車であるIV号戦車を、相手の攻撃から守る結果となるのであった

「問題が多かったけど、走りさえすればいい車だったよ」



ナカジマ
大洗女子学園 3年（普通科）
車長・通信手でチームの中心人物。雨の日の外出が、大好きである



スズキ
大洗女子学園 3年（普通科）
くせっ毛が特徴の装填手。将来の夢は、プロ戦車道チームのオーナー



ホシノ
大洗女子学園 3年（普通科）
「大洗一速い女」との異名を持つ砲手。つねに寡黙でクールな性格



ツチヤ
大洗女子学園 2年（普通科）
操縦手。金曜日のドリンクバーが好きで、「ドリキン」のあだ名を持つ

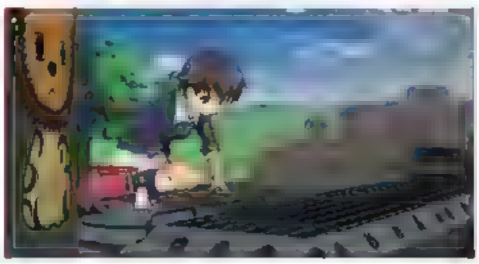
ポルシェティーガー





走りながらエンジンの修理

ポルシェティーガーのエンジンは、ハイブリット方式を採用していたため、加熱しやすいという欠点を持っていた。だがナカジマは決勝戦の試合中、走行しながらエンジンを修理するという離れ技を披露。見事にエンジントラブルを解消して、みほたちに追いついた





みほたちを援護するため仁王立ち

みほたちと連絡を取り合っていたレオポンさんチームは、Ⅳ号戦車とまほのティーガーⅠとの一騎打ちに邪魔が入らないように通路を封鎖。黒森峰の猛攻撃を受けるなか、一歩も引かずに最後まで通路を死守した。これは決勝戦中で、もっとも感動的なシーンと言えるだろう

ライバルチーム研究

今回は、全国大会の一回戦で黒森峰とぶつかり、惜しくも敗退した知波単学園を始め、高い実力を持つ継続高校を紹介。さらに、今大会未出場の伯爵高校やビゲン高校に、スポットを当ててみました。

知波単学園
Chihatan Gakuen High School

千葉県習志野市にある学校で、寄港地は千葉港となっている。また、館山港と銚子港が予備寄港地でもあり、学園艦自体はそのどちらかの周辺に停泊することが多い。創立当時の名前は、「千葉県立短期大学付属高校」で、通称として「千葉短高」と呼ばれていた。しかし、学園艦建設の際に同短大とは関係がなくなり、通称は残しつつも「知恵の波を単身渡れるような進取の精神に溢れる学生になるように」との意味を込めて、知波単学園と命名された。

もともと、船橋市と習志野市にまたがる形で学園と短大の敷地があり、短大が船橋側、学園が習志野側へと分割された。また、近隣に馬術の盛んな土地があったため、学園では馬上薙刀道と流鏑馬が人気を博していた。その関連から、馬術大会が学校行事として定期開催されている。また、短大自体は近隣にある工業地域への技術者養成のために作られたため、工学系の教育にことのほか力を入れていた。そこで設立時は短大であったが、より深い教育を行うために四年制大学となった。また、大学と学園が分かれた時点で、学園側は工学中心ではなくなっている。一方、習志野騎兵学校で学ぶ女性騎兵隊に対して日本で最初に戦車が配備され、戦車教育が行われるようになった。学園では馬術を習志野騎兵学校の女性騎兵隊員から習っている者も多く、その繋がりから戦車に興味を持つ者も少なくなかった。それのみならず、第一次世界大戦後、旧式戦車が払い下げられた時に、退役した乗員が戦車ごと学園の教員となることもめずらしくなかった。そこで、学園では戦車道が活発になっていった。それ以降も多数の元戦車乗員が教員になり、最初はルノーFTなどの海外の戦車の運用が採用されていたが、徐々に払い下げの日本戦車を使用。日本式の戦車運用へと教育方針が変化していった。

保有している車輛の大部分が九七式中戦車で、57ミリ砲装備型の旧砲塔、47ミリ砲搭載型の新砲塔の両方で、かなりの台数を占めている。また、ブルドーザーやクレーン車に改造された車輛も多数保有しており、それを少しずつ元の戦車に戻している模様。ほかには九五式軽戦車もそれなりの台数を揃えている。これも、ブルドーザーなどに改造された車輛と同様に保有している模様。これらの車輛を戦車に戻す際に、九七式中戦車の旧砲塔と組み合わせた四式軽戦車相当の車輛や、五式自走砲相当の車輛も作られたというが、大会に登場していないので詳細は不明である。ほかにも特二式内火艇や一号戦車、M3軽戦車など多彩な車輛があると言われているが、くわしい状況は分かっていない。なお、どの車輛も大幅に改良しており、信頼性、排気量、出力などが桁違いに向上している。これによって、使用車輛の速度や機動性が大幅に改善した。

過去に全車輛による一斉突撃によってベスト4へ進出したことがあるため、以後はその戦術を金科玉条のごとく守るのが鉄則とされていた。だが、近年は初戦敗退が続き、とくに全国大会一回戦で黒森峰女学園相手に全車輛が遠距離から次々と撃破されたのが大きな衝撃となり、改革の気運が持ち上がっている。

生徒の気質としては、堅実で生真面目。義理人情にも厚いが、温暖な気候のせいか、やや大らかなところがあり、細かい点が抜けていることも。ただ、粘り強さがあり包容力にも溢れているので、良妻賢母となる生徒も多い。読書好きな生徒も多数おり、学園艦の図書館における蔵書の多さは有名である。また、自費出版の書籍数も非常に多い。金銭的にも締めるところは締めるが、趣味には躊躇なく大金をつぎ込むので、学校の部活動も非常に多彩で活発である。さらに前述の通り、馬術関係の部活は活発だが、それ以外にもマリンスポーツに積極的である。

知波単学園の選手と使用戦車

九七式中戦車
八九式中戦車の後継として開発された、日本の戦車。1937年に制式化され「チハ」と呼ばれている。当初は短砲身の57ミリ砲を搭載していたが、低初速で威力不足であった。そこで1942年後半から、対戦車戦能力に優れた長砲身47ミリ砲を装備した「九七式中戦車改」が生産された。なお、九七式中戦車の活躍はマレー作戦で島田戦車隊が行った、夜間攻撃が有名である





かつては全国大会でベスト4入りも果たした知波単学園。だが、今大会一回戦で黒森峰と対戦した際には、完膚無きまでに叩きのめされた

西 絹代
東京都港区出身の16歳。血液型はO型。全国大会後に、知波単学園の隊長に就任する。家族は、両親のほかに弟が2人。好きな科目は日本史。食べ物では、桜餅が大好きである。趣味はバイクに乗ることで、その整備を日課としている。座右の銘は「先んずれば人を制す」である

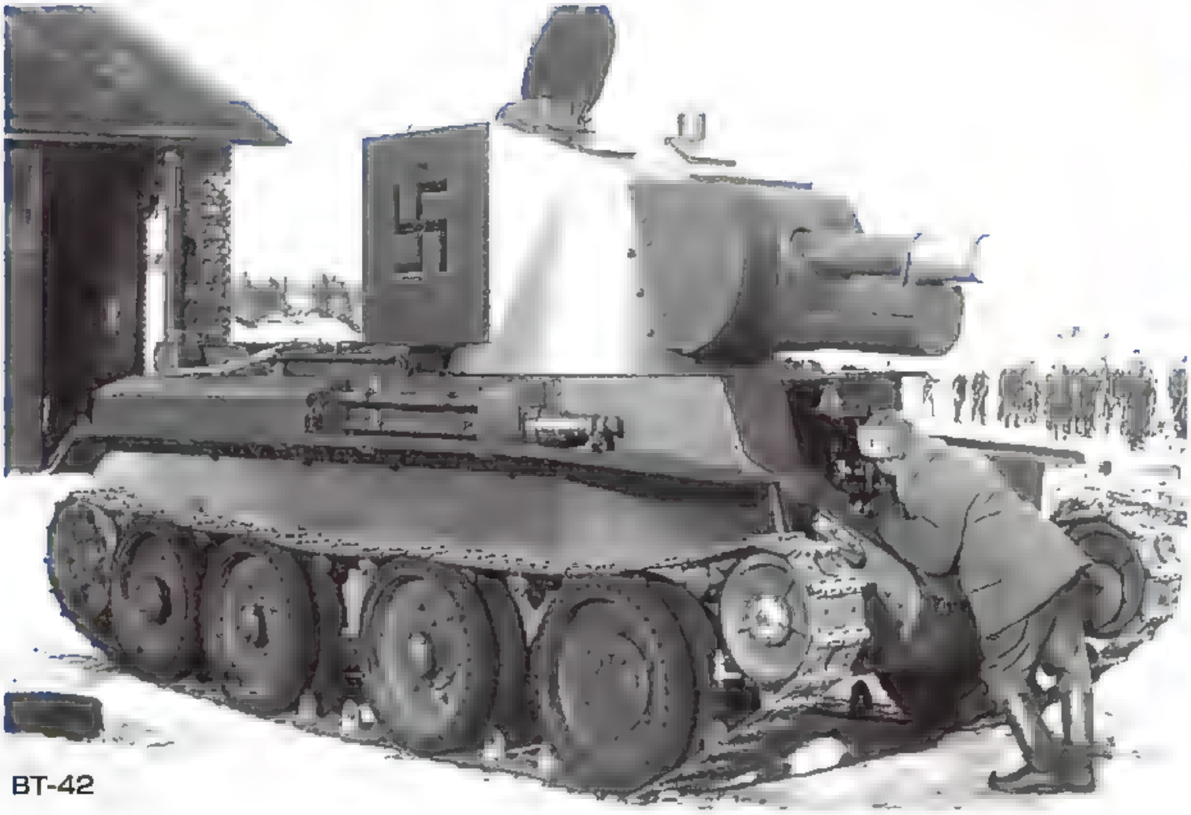


お詫びと訂正：増刊1号でアッサムの誕生日を12月8日と記載しましたが、12月10日の間違いでした。お詫びするとともに、訂正いたします

継続高校

Keizoku High School

継続高校の使用戦車



BT-42

石川県にあるフィンランド系の学校で、金沢港を母港としている。1782年、嵐によってロシア領のアリューシャン列島へと漂着した大黒屋光太夫は、フィンランド生まれの博物学者キリル・ラクスマンに保護された。日本へ帰国するためにラクスマンから多大な援助を受けた光太夫は、女帝エカテリーナ二世に帰国の許可を得るためにペテルブルクを訪問。キリルの息子であるアダムとともに日本へと帰国した。アダムは、ロシア最初の遣日使節として、1792年10月根室に到着。これが最初のフィンランドと日本の交流であった。だが当時フィンランドはスウェーデン領であった。この際に、日本とロシアの国交樹立には失敗するが、その後もフィンランドとの散発的な交流は続いていた。とくに1917年、フィンランドが独立する際、日本がフィンランド独立活動に対して積極的に支援を行ったこともあり、1919年には同国からアジアで最初の常駐使節が送られている。こうした支援は、シベリア鉄道経由で行われていたが、次第に船舶が中心となり、最短の北極海航路が使えないかと模索されるようになった。実際、1879年にはフィンランド人学者で冒険家のノルデンショルドが、北極海航路を通って日本まで到達していた。だが、日本側では砕氷船の建造が遅々として進まなかった。結局ドイツから購入した砕氷船を、「白山丸」と命名して金沢港に係留し、何度かフィンランドへの物資輸送に使用した。だが、北極海航路の通航期間は短く、冬を迎えて本格的に航路が凍結すると砕氷船でも通れなくなるため、安定した貿易に使用するには不向きであった。結局、白山丸も金沢港に繋がれたままとなり、のちに、これが継続高校の初代学園艦となった。その理由は、フィンランドと石川県の気候が似ていて、もともと同県に多数のフィンランド人が移住しており、北極海航路が使用されなくなったあとも、フィンランド貿易の拠点に金沢港が使われていたことによるという。

学校の規模は小さいが戦車道は非常に活発で、各国の雑多な戦車を保有している。なかにはルノーFTやビッカース6トン戦車のような旧式戦車もあるが、T-26やBT-5/7などの軽戦車や、T-34/76や85、KV-1などソ連製戦車もある。ほかにも、ドイツ製のIII号突撃砲G型やIV号戦車J型が、主力として使用されている。変わり種としてはT-28多砲塔戦車や、BT-7を独自改造して114ミリ榴弾砲を搭載したBT-42もある。基本的に継続高校の車輌はオリジナルと比べ、より強力なエンジンに換装されたり、主砲を交換されたりしていることもめずらしくなく、かなりの魔改造を施されているのが普通である。また整備能力も高く、ほとんどスクラップ状態の車輌でも、まともに使えるようにしてしまうと言われている。さらに隊員のドライビングテクニックと射撃能力は極めて高く、とくに雪中戦では無類の強さを発揮する。ただし、暑い場所での戦いは苦手としている。

生徒の気質としては、恥ずかしがりやで人見知り。忍耐強く孤独を好むところもあるが、正直で義理人情に厚く、一度友人になると極めて親身に付き合おうとする。また、聞き上手で自ら会話を振ることが少ないため、数人が集まっても、まったく会話がないまま時間が過ぎることもめずらしくない。ただし文化、芸術方面の教育には力を入れており、その分野では饒舌になることもある。

BT-42

1939～1940年の「冬戦争」や1941年に勃発した「継続戦争」の緒戦で、フィンランドは大量のソビエト製戦車を鹵獲した。そこでフィンランドは、BT-7をベースにイギリス製114ミリ榴弾砲を搭載。突撃砲としてBT-42を開発した。その特徴は、突撃砲でありながら回転砲塔であったこと。114ミリ榴弾砲を搭載するため、左右に箱型の張り出しが設けられた

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

伯爵高校
Count High School

相馬港を母港とする学校。ルーマニアから亡命してきた裕福な貴族が、福島の温泉を気に入り、リゾート施設を建設したのが学校の始まりである。山に囲まれ、東側が海に面している福島の地形がルーマニアに似ていたので、この地を選んだという説もある。創設者は公もしくは公爵であったというが、なぜ校名を伯爵としたのかは不明である。当初はリゾート施設であったが、ルーマニアから訪れる人々が増えたので、その子供のための教育施設として学園艦を購入した。

特色としては農業科が人気で、とくにとうもろこしの栽培と品種改良が活発である。めずらしい学科として魔女学科があり、占い師を目指す女子には大変人気がある。そのせいか、戦車道も占いで作戦を決めることが多く、とんでもない作戦を選択することもある。主力戦車はIII号N型、IV号G型、III号突撃砲G型とドイツ戦車で揃えているが、車輌数は多くない。ほかにLT-38やLT-35（R2中戦車）など、各種チェコ製の戦車を保有。めずらしい車輌として、マレシャル駆逐戦車がレストア中である。



III号N型

III号N型

第二次世界大戦時、ドイツと近いルーマニアは枢軸側として参戦。ドイツの協力で、戦力の機甲化が図られた。その一環で所有していたのが、III号N型である。N型は、1942年6月より生産を開始。当時、IV号戦車の長砲身化で余った、短砲身75ミリ砲を搭載した。これにより、従来の50ミリ砲に比べ火力がアップ。火力支援用の戦車として使用された

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

ビゲン高校
Viggen High School

新潟港を母港とする学校。学校の名前はスウェーデン語で「稲妻」という意味を持つ。原語では「ヴィッゲン」だが、読みにくいとして「ビゲン」と表記されている。1775年に来日した植物学者、カール・ツンベルクに教わった蘭学者が、新潟にて植物学を研究。その研究結果と、ツンベルクが持ち帰った標本の比較を行う研究所として設立された。そのため植物学科が基礎となっているが、その後鉄鋼を中心とした工業科、生産性向上を主眼とした農業科、めずらしいところで木工科が存在する。またファッションやインテリアにも力を入れており、家政科の人気が非常に高い。

戦車道にも積極的だが、乗員と戦車の不足から大会にはなかなか参加できないでいる。保有車輌は、主力戦車として75ミリ砲装備のStrv m/42がある。それとStrv m/40軽戦車の組み合わせが、同校の基本的な編成となっている。



Strv m/42

Strv m/42

中立の立場を取っていたスウェーデンは、第二次世界大戦に参戦することはなかった。だが、欧米の戦車に脅威を感じた同国は、1942年に新型戦車を制式化。それがStrv m/42である。主砲は短砲身の75ミリ砲を装備。変速機には電気式が取り入れられた。しかし、電気式変速機はうまく作動しない場合が多く、後に最新の油圧式を搭載した派生型が作られた

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

ガルパン トピックス

ガルパンバス完成までをレポート



ラッピング作業は、11月12～14日に行なわれた。まず初日は、後部のフィルム張りからスタート。車体の形に合わせてカッティングされたシートを張り込んでいった



キレイに仕上げるコツは、シートと車体の間に空気を残さないこと。これが意外と難しい

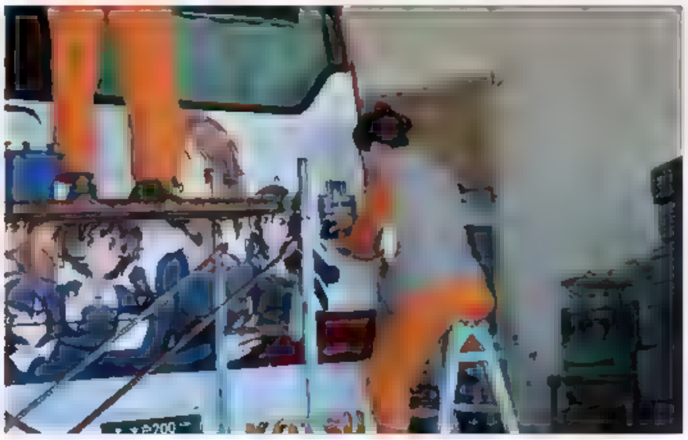


茨城交通 ガルパンバス3号車が完成！

高速バスとして3路線で運行開始！

2014年11月16日のあんこう祭でお披露目された茨城交通のガルパンバス3号車が、高速バスとして運行を開始した。これまで茨城交通は、2台の路線バスにラッピングを施していたが、高速バスの運行は今回の3号車で初めてとなる。

また、3号車制作では、ガルパン公式ラッピングシートの販売やフッピング施工を手がける「フィール」さんほか、勝手にガルパン応援団（KGO）の皆さんが参加。1～2号車と同じく、自らの手で3号車を完成させた。その出来栄えはぜひ乗車して、皆さんの目で確かめて欲しい。





多忙のなか、常盤良彦さんや杉山Pも作業に参加。ロゴ貼りや細かいカッティングを手伝っていた



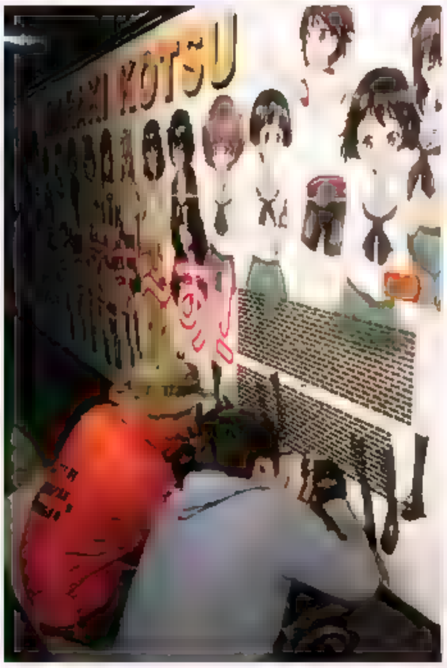


2日目からは、左側面の作業に着手。分割されたシートがずれないよう、細心の注意が払われた





あんこう祭当日、あんこうチームの声優さんが、シールを張ってついに3号車は完成した







大詰めを迎えた3日目は、右側面を仕上げるため深夜まで作業を続行。14日の夜11時過ぎに、なんとか仕上げた

ガルパンバス3号車の運行状況

●おもな運行路線
勝田・東海線（東京駅～水戸大洗IC・ひたちなか・東海）
北関東ライナー宇都宮線（宇都宮駅～水戸・ひたちなか）
羽田空港線（羽田空港～水戸・日立）

●運行便・運行ダイヤ
茨城交通HP「運行情報」をご確認ください
http://www.ibako.co.jp/

※車両の運用上の都合により、上記運行予定は予告無く変更となる場合がありますので予めご了承ください
※車間詰め、並走、追いかけや、運転しながらの写真撮影は大変危険です。また、ほかの車両の通行の妨げとなる場合がありますのでご遠慮ください

来年3月15日に 海楽フェスタ開催決定！

来年で4回目を迎える「海楽フェスタ2015」が、3月15日に開催される。まだ各イベントの詳細は決まってないが、15日夜に花火大会が行われる。もちろん、今年好評だったあんこう花火も打ち上げる予定。12月より、花火大会用の一口カンパも始まるので、大洗町商工会HPをチェックしてほしい。

※写真は平成26年3月のものです



年末年始は 大洗町でガルパン三昧！

大洗磯前神社に巨大なガルパン絵馬が飾られた大洗町の年末年始。今年も町の皆さんが、訪れるお客さんをもてなすようだ。また、大洗磯前神社の近くにある「神磯の鳥居」から眺める初日の出は、まさに絶景。朝日に染まる荘厳な風景を楽しんでもらいたい。神社は平成27年3月まで改築工事中。参拝はできます。

※写真は平成26年3月のものです



ウサギさんチームの ラジオ番組が決定！

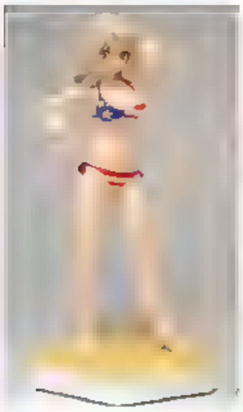
11月3日に開催された「ハートフル・ラビット・ファンミーティング」にて、ウサギさんチームがパーソナリティーとなるラジオ番組の放送決定が発表された。このラジオ番組では、劇場版の情報も聞けるかもしれない。放送日時の詳細は、公式HPにて発表されるのでチェックして欲しい。



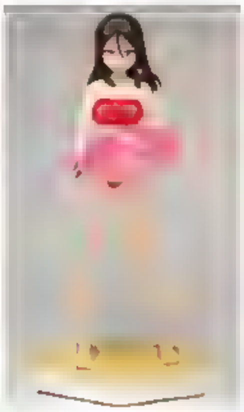
アイテム情報

BEACH QUEENSシリーズ

透明感あふれる質感を再現した塗装済完成品として、プラウダ高校のカチューシャやノンナ、サンダース大学付属のケイがリリース。頭部が可動するので、微妙なしぐさが楽しめるぞ



ケイ
●2015年6月発売予定
●11,000円(税抜)



ノンナ
●2015年5月発売予定
●11,000円(税抜)



カチューシャ
●2015年5月発売予定
●9,500円(税抜)

●発売元：ウェーブ　●注文先アドレス：http://www.rakuten.ne.jp/gold/be-j/

ガールズ&パンツァー モッズコート



胸には「大洗女子学園」の校章、右肩にはファッショナブルな戦車のシルエットの刺繍入り



「あんこう迷彩柄」のインナーベストは、無地とリバーシブル



サイズはMとLの二種類を用意。普段使いしやすいよう、フェイクファーは取り外し可能

●2014年12月19日頃発売　●各24,000円(税抜)　●発売元：ムービック
●注文先アドレス：http://www.movic.jp/info/ankouya/

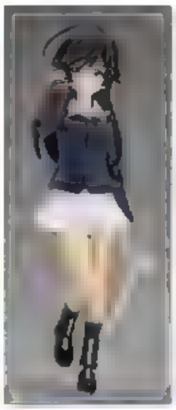
IV号戦車D型 エンディングVer.プラモデル



エンディングに登場した、IV号戦車D型のデフォルメプラモデル。アンツィオ戦の模擬戦時など3種類のデカールを付属

●発売中　●2,300円(税抜)
●発売元：ピットロード

figma 五十鈴華



オリジナル関節パーツで、あらゆるシーンを再現できるfigmaから五十鈴華が登場。表情は、ほほ笑みやうっとり顔など3種類がある

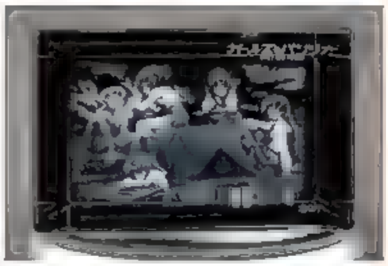
●2015年1月発売予定
●4,444円(税抜)
●発売元：マックスファクトリー

3Dクリスタルアート

マウスvs38(t)改(ヘッツァー仕様)



あんこうチーム



カメさんチームの活躍シーンと、IV号戦車の上で一休みするあんこうチームを、クリスタルに彫刻。特殊技術を使った製法で、室内の明かりだけでも美しく各シーンが表現されている

●2015年3月1日まで予約受付中　●発送予定 2015年2月上旬～4月上旬(申し込み時期により変動します)
●各10,000円(税抜)　●注文先HP：http://cf.xonline.jp/project/　●発売元：株式会社そらゆめ

ねんどろいどもあ IV号戦車D型



細部のディテールを残しながら、デフォルメ化。ゼンマイ駆動で上下に揺れながら走行も可能
※ねんどろいど みほは別売りです

●2014年12月発売予定　●4,630円(税抜)
●発売元：グッドスマイルカンパニー

ガールズ&パンツァー コミックアンソロジー SIDE:聖グロリアーナ女学院



ライバル校にスポットを当てたアンソロジーシリーズ。第一弾は聖グロリアーナをフィーチャー

●発売中　●843円(税抜)
●著者 バセリ、阿部かなりほか
●発行：一迅社

ガールズ&パンツァー コミックアンソロジー2



コミックアンソロジーの第二弾。今回は執筆陣として、アニメのキャスト15名が参加した豪華版!!

●発売中　●552円(税抜)
●著者 才谷屋龍一、弐尉マルコほか
●発行 KADOKAWA

ガールズ&パンツァー モデリングブック2



初心者から中級者を対象に、カッコ良く戦車のプラモデルを作る方法とコツを教える、シリーズ第二弾 IV号D型改(F2型)を含む4輌収録

●発売中　●3,000円(税抜)
●発行：大日本絵画

ガールズ&パンツァー 2015年版カレンダー



A2サイズの大判カレンダー。イラストは新規描き下ろしで、ヒロインたちの季節感あふれる姿が楽しめるぞ

●発売中　●1,600円(税抜)
●発売元：エンスカイ

Girls und Panzer Event Report

ガルパン・イベントレポート

大洗町で開催されたハートフル・ラビット・ファンミーティングやあんこう祭など、目白押しとなった2014年の10～11月の各イベントをピックアップ。大勢のファンが集まりヒートアップした、各イベントの模様と盛況ぶりをお伝えいたします。

大貫商店会感謝祭

大貫商店会初イベント！

2014年10月12日、茨城県・大洗町の大貫地区では初のイベントとなる「大貫商店会感謝祭」が開催。トークショーが二部構成で行なわれた。最初のトークショーでは、杉山Pを始め考証・スーパーバイザーの鈴木貴昭さんと、現在「ComicWalker」で「ガールズ&パンツァー 激闘！マジノ戦ですっ!!」を連載中の才谷屋龍一さんが登壇。第二部では、カエサル役の仙台エリさん、エルヴィン役の森谷里美さんがステージに登場した。『ガルパン』のイベントでは初トークとなる仙台さんと森谷さんだが、つねに明るい表情で大洗町の印象や劇場版への期待を述べるなど、終始リラックスした雰囲気。観客も彼女たちを応援するかのように大きな声援を送り、大貫地区初のイベントは和やかなうちに終了した。



2つのトークショーで楽しさも2倍！



才谷屋さんは、ヒロインのラフを持参して連載作品をアピール。才谷屋さんの作品は「ComicWalker」のサイト、http://comic-walker.com/にて連載中



仙台さんの「旅館に戦車が突っ込んだとき、どういう気持ちだったのか」との疑問に答えるため、肴屋本店代表の大里明さんが登壇。トークを盛り上げた



当日はマンガ「ガールズ&パンツァー リボンの武者」の作者・野上武志さんが参加予定だったが、台風の影響で取材先から帰れずに欠席。かわりに飛び入りで参加した、ミリタリー監修の吉川和篤さんが、九五式軽戦車の解説を行った





写真左より、仙台えりさんと森谷里美さん

県立大洗女子学園修学旅行

大洗シーサイドホテルで大騒ぎ！



完全武装の杉山Pと、ゴルゴ13風のメイクをした常盤さんの存在感は大きく、ホテル内にカオスな状況を生み出していた





2014年10月23～24日、茨城県・大洗町の大洗シーサイドホテルでは、「県立大洗女子学園修学旅行」と銘打った1泊2日のイベントを開催。教頭先生役の常盤良彦さん、学年主任役の大里明さんが、トークショーや深夜の見回りなどのユニークな企画を実施した。とくに夜の見回りでは、杉山Pと常盤さん達が各部屋に乱入。スポンジガンを乱射したり竹刀を振り回したりして、深夜まで参加者を驚かせた。ただし、騒ぎを聞きつけた部屋では、防戦態勢を整えて待機。杉山Pたちがマクラ投げで迎撃される場面も見られた。なお23日には、西住みほの誕生日を祝うミニイベントが、曲がり松商店街で行なわれた。

ハートフル・ドゥーチェ・カーニバル

2014年、アンチョビの誕生日でもある9月23日に茨城県・大洗町で、ドゥーチェの生誕を祝う催しが行なわれた。そのなかでも盛況だったのが、大洗町文化センター大会議場で開催された、吉川和篤さんを迎えた「設定考証で振り返るガールズ&パンツァーOVA」。プロジェクターに映される各資料と吉川さんが語る3DCG制作の舞台裏に、約400人もの観客は興味深げに聞き入っていた。

茨城県大洗町 秋の観光キャンペーン

2014年10月28日、東京・ヨドバシAkibaのイベント広場で、大洗町観光キャンペーンのミニイベントが催された。ここでは、ハズレなしの抽選会やシラスを使った常陸鍋が無料で振舞われたうえ、杉山Pと常盤さんのミニトークショーも行なわれた。ところが杉山Pは、相変わらず脱線トークを展開。平日にも関わらず集まった観客の爆笑を誘っていた。また、常陸鍋や大洗町のマスコットキャラクター・アライッペのアピールに、ユニークな紹介で一役買っていた。





壇上にはアライッペと一緒に、大洗町の観光大使である「ポートフレンズ大洗」が登場。大洗町の見どころやグルメ情報など紹介した

ハートフル・ラビット・ファンミーティング



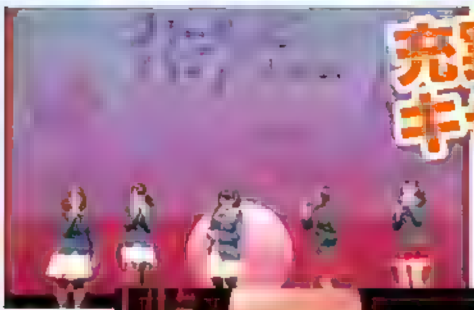
充実した内容でキャストや観客も大興奮!



イベント前半では、丸山紗希役・小松未可子さんのビデオメッセージを上映。「劇場版ではセリフがあるか」というコメントが届けられた

ウサギさんチームが集結!

ウサギさんチームをフィーチャーしたイベント「ハートフル・ラビット・ファンミーティング」が、2014年11月3日、茨城県・大洗町の文化センターで開催。会場には、ウサギさんチームのキャスト5人(竹内仁美さん、中里望さん、多田このみさん、山岡ゆりさん、秋奈さん)が集結した。ステージには、まず司会として左衛門佐役の井上優佳さんが登場。その後も、前日に誕生日を迎えた秋奈さんに、バースデーケーキが運ばれるなど、イベントはサプライズの連続であった。さらに最大のサプライズは、ウサギさんチームによるラジオ番組のパーソナリティー権の獲得。これは「うさぎさんチームM!SS・ON!」というコーナーで、さまざまな難関をくぐり抜けたご褒美として与えられたもの。これには、ウサギさんチーム全員が、よろこびを爆発。驚きがいっぱいのイベントは、歓喜のうちに幕を閉じた。





このイベントで、ファンとの一体感を感じた竹内さんは、最後のあいさつで感極まった様子。まさに、ハートフルなイベントとなった

八九式中戦車のオブジェを寄贈

秋晴れの下、マリンタワー前広場の特設ステージで行なわれた「商工感謝祭」の開会式では、ウォーゲーミングジャパンより八九式中戦車オブジェが大洗町に寄贈された。なお八九式中戦車オブジェは、今後まいわい市場の2階に展示される予定である



第3回を迎えたガルパン早押しクイズ





「商工感謝祭」の一環として開催された「第3回ガルパン早押しクイズ」では、進行役として杉山Pと常盤さんが登場。サングラス姿で、クイズを盛り上げた。また大会の結果は、第1~2回の優勝者が、決勝戦で他の参加者を圧倒してストレート勝ち。あっけない幕切れのため、二位決定戦が急遽行なわれた



点数を数えるために制作された、潔君(右)とスーパー潔君(左)。潔君は1点で、特別問題の回答者の前には、2点のスーパー潔君が置かれた

商工感謝祭にウサギさんチーム登場!



イベントの同日、マリンタワー前広場で行なわれた「商工感謝祭」では、午前中にウサギさんチームの5人が特設ステージに登場。背中にウサギさんチームのマークをあしらったパンツァージャケット姿で、来場者にあいさつを行った。最初は、やや緊張気味の5人だったが、ファンの暖かい声援に支えられて、初々しいトークを展開。大洗町の印象などを語り合った



ステージの後半では、アライッペが登場。秋奈さんが初めて見るアライッペを怖がり、壇上を逃げ回るというハプニングもあった

新たなスタンプラリーが秋から始動!

2014年11月1日から大洗町では、ウサギさんチームのスタンプラリーが登場。これは、チーム6人のキャラクターパネルが置かれた店舗をめぐり、6種類のスタンプをあつめるというもの。期間は台紙がなくなるまでとのことなので、ぜひ早めに挑戦して欲しい



第18回大洗あんこう祭

2014年11月16日、茨城県・大洗町で18回目を迎える「大洗あんこう祭」が開催。午後からのステージショーには、あんこうチームのキャスト5人（渕上舞さん、茅野愛衣さん、尾崎真実さん、中上育実さん、井口裕香さん）が集まった。今回で、あんこう祭への参加も3回目を迎えた5人だが、観客で埋め尽くされた会場を見渡して驚いた様子。尾崎さんは「地面の底が抜けるんじゃないか」とコメントした。また、あんこう祭や大洗町の印象について5人は口々に「落ち着く、ホッとする」と大洗町への愛着を語った。

続く新発表のコーナーでは、杉山Pが登壇。劇場版の公開を、来年夏と発表した。これに渕上さんが「夏って何月まででしたっけ」とするどくツッコむと、さすがの杉山Pもタジタジ。それでも観客は、劇場版への期待を大きく膨らませていた。さらに「ガルパンバス3号車」の完成や、『ガルパン』専用スマホアプリが、来春から配信開始などの情報を公開。最後は恒例の「パンツァーフォー」の掛け声で、イベントは締めくくられた。

ファンも熱狂！

会場を埋め尽くした観客にキャスト陣も大興奮！







2013年のあんこう祭でお披露目された、アライッペが今回も登場。舞台で激しくジャンプするなど、荒ぶる姿を見せた

大洗磯前神社でヒット祈願



ステージショーの後に、歴史ある大洗磯前神社を参拝。劇場版のヒットを祈り、神妙な面持ちで祈祷を受けていた



キャストが着用していたモッズコートは、メンズ仕様でムービック通販サイト「あんこう屋」で発売中（P31アイテム情報参照）

渕上舞さんがあんこう祭開会を高らかに宣言



抜けるような青空の下で行われた開会式に、杉山Pと渕上さんが参加。あいさつで渕上さんは「雨女を返上できたよう」とコメント。みほの声で開会を宣言した

商店街に個性豊かな車輌が大集合！



日照プラントさんが、Ⅳ号戦車に引き続いてCV33を製作。多くの人々が足を止めて、記念撮影をパチリ



アメリカの軍用車輌、ハンヴィーが登場。その大きさに、びっくりする通行人も多かったようだ



その存在感で、注目を浴びたハヴィーゼル。対空ミサイルランチャーを回転させて、観客の目を奪っていた





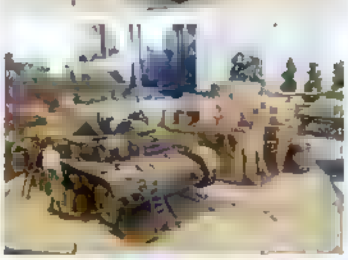
今回、初お披露目となったガルパンバス3号車。左側面にはライバル校のヒロイン、右側面は大洗女子の女の子たちをラッピング。高速バスとして運行されている

各特設ブースも大賑わい！



「モデルカステン」のブースでは、中村桜さんがサイン会を実施。ひとりずつファンとの会話を楽しみながら、終始笑顔で交流を深めていった









「フジミ戦車道」では、タイムトライアル部門&射的部門と、二種類の競技を実施。多くの挑戦者が、しのぎを削った



まいわい市場前のテント村も、お気に入りのガルパングッズや書籍を買い求めるお客さんで、大賑わいであった



まいわい市場2階の「ミニミニホビーショー」では、監修中の「figma 冷泉麻子」など、最新のアイテムが展示された

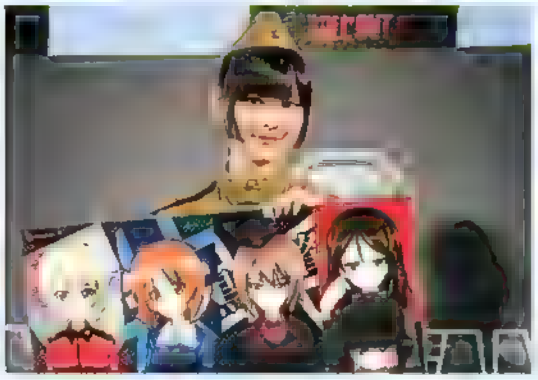
バックトゥザ・カーニバル
BACK TO THE CARNIVAL

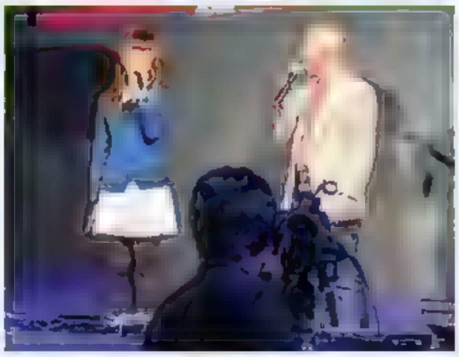
過去のイベントにスポットを当てた本コーナー。今回は、4日間連続でキャスト陣のトークショーを開催した「東京ゲームショウ2013」を中心に、昨年秋の思い出深いイベントを紹介します。

東京ゲームショウ2013 WoT×ガールズ&パンツァー 東京ゲームショウカーニバル4Days

2013年7月28日　千葉・幕張

『World of Tanks』と『ガルパン』のコラボ化を受けて、ウォーゲーミングジャパンは「東京ゲームショウ2013」にて、4日間連続のイベントを実施。1日目の渕上舞さんや杉山Pが出席した「コラボ宣言です!」記者会見を皮切りに、ロシア戦車や八九式戦車をキャスト陣が語るトークショーや、『World of Tanks』に中上育実さんや尾崎真実さんが挑戦するなど、盛りだくさんの内容でファンを楽しませた。また期間中は、西住みほの声がゲームに実装されるなどの新情報が告知された。





1日目の記者会見では、日本戦車や西住みほの音声MODの実装を発表。2日目はノンナ役の上坂すみれさんがロシアの軍服に身を包み、ロシアへの愛と思い入れを語った







3日目は、バレー部のキャスト4人が、ステージで八九式中戦車の実装を直訴。4日目は中上育実さんと尾崎真実さんが、ゲームプレイを実演した

ウォーゲーミングジャパンのブースでは、九五式軽戦車を展示。2013年9月13～16日の間、九五式軽戦車をトレーラーに載せて都内を巡回していた







大洗町商工会感謝祭

2013年11月3日　茨城・大洗町



マリンタワー前広場で開催された初の「ガルパン早押しクイズ大会」では、園みどり子役の井澤詩織さんが司会として登場。同じく司会の常盤良彦さんと、集まった観客を盛り上げた。また、難問続出だったクイズ大会を制した優勝者には、井澤さんのサイン色紙と、副賞として干し芋1年分が贈呈された。





早朝から集まった観客は、井澤さんの見事な司会ぶりに大興奮な様子。初めてとなるクイズ大会の勝者が誰になるのか、固唾を飲んで見守っていた

ディープ・タンク・トークショー2

2013年10月19日　東京・北千住

このイベントは、3DCGスタッフが映像を見ながらモデリングの解説をする第1部と、音響スタッフが音へのこだわりを語る第2部で構成。双方に渕上舞さんを招いて、リアリティー溢れる映像や音の制作過程が披露された。

ガールズ&パンツァー講演会@オーシャンビュー大洗

2013年10月20日　茨城・大洗町

オーシャンビュー大洗開館20周年を記念して開かれたこの講演会では、参加者に大洗町の良さを知ってもらおうと、杉山Pと常盤良彦さん、大里明さんが登壇。杉山Pと常盤さんが出会った当初のエピソードや、『ガルパン』制作当初の思い出話などが披露された。



メイキングログ！ 大洗町イベント編

コソコソ作戦本部ミーティング

「大洗コソコソ作戦本部」とは、大洗町関連のガルパンイベントを考えるグループ。もともとは、常盤良彦さんや肴屋本店の大里明さん、大洗ホテルの島根隆幸さんらが中心となって結成された。現在では、各団体にとらわれない「ガルパン」好きの仲間たちが集まり、大洗町某所でコソコソと計画を立てている。





さまざまな資料や情報を持ち寄って、各イベントの企画内容を検討していく作戦本部のメンバーたち。とくにあんこう祭などの大規模なイベントとなると、3ヶ月くらい前から打ち合わせを重ねている

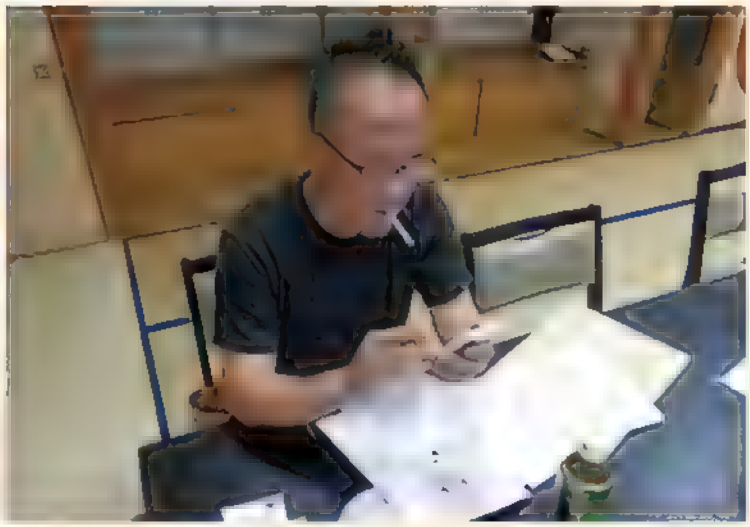


和気あいあいとした作戦本部内

普段から公私ともに、大洗町を支えているメンバーが集まっているだけに、作戦本部内は和やかな雰囲気。ただし、イベントでの安全確保やファンを楽しませる企画の検討では、真剣な眼差しで内容を分析。細部に渡って、問題を洗い出している。









杉山大使も交えて企画内容を検討

会議には、「大洗大使」でもある杉山Pも参加。企画のアイデア出しだけでなく、イベントに関わる関係者への連絡や調整を行っている。イベントのMCではユニークな一面を見せている杉山Pだが、作戦会議では真面目な表情で議論を深めていた。



疑問点があれば、すぐさま確認する各メンバーたち。すばやい対応が、イベント成功のカギとなっている





各意見を聞きながら、杉山Pは具体的な調整方法を考えている模様。とはいえ、おもしろい提案には、メンバーと一緒に笑顔を見せていた

信頼する仲間たちが支える大洗町のイベント

大洗町で「ガルパン」関連のイベントが行われる際には、町内の関係者がお客さんを迎えるため、準備を整えている。だが、その繋がりは緩やかで、組織化されたものではない。

「きっちりと組織化すると、目標等ができてしまい大変ですよね。それよりも、仲間たちと楽しみながらも真剣にやることが大切なんです」

そう語るのは「ガルパン」を全力で応援する常盤良彦さん。彼は、一緒に作業する仲間たちとの信頼関係を、何よりも大切にしている。

「KGOなどは運営側だから、楽しむことはできても、遊ぶことはできない。だから、KGOや各パートの頑張りに、すごく感謝しています」

では、何がイベントを支えるモチベーションになっているのか？

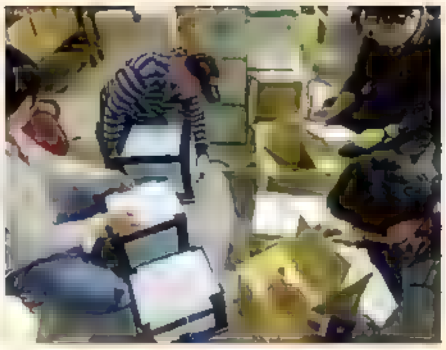
「やっぱり、お客さんによろこんでいただけることですよね。準備作業は結構苦しいのですが、その先にある成果がわかるから頑張れる。それが、僕らのモチベーションですね」



勝手にガルパン応援団(KGO)が準備をお手伝い

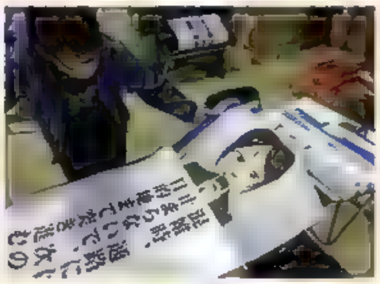
イベントが直前になると、いよいよ「勝手にガルパン応援団」(KGO)の出番。立て看板の製作や、会場設営にとせわしく働くのだ。彼らは全員ボランティアで、仕事や学業などの合間に貴重な時間を割いている。それというのも、お客さんの笑顔やねぎらいの言葉に、最大のよろこびを感じているからだと言う。





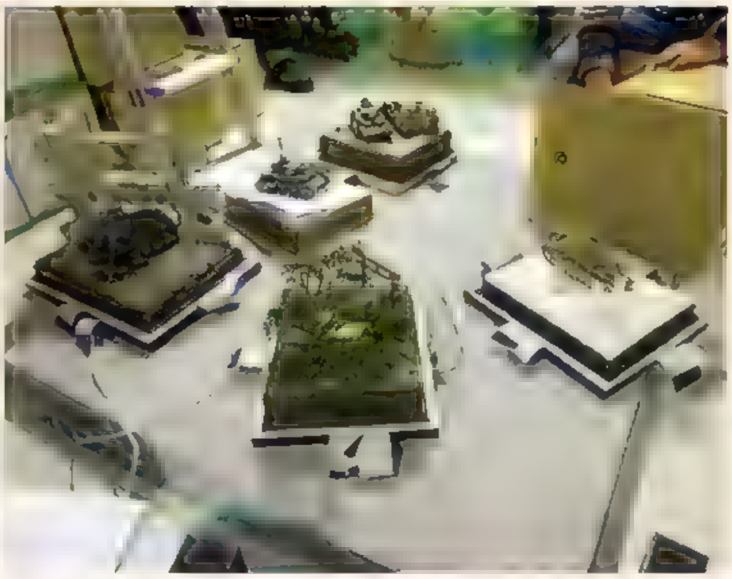
届いたプロモデラー・山田卓司さんのジオラマを、チェックしながら開封。慎重な作業にも、KGOは見事に対応している







立て看板作りでは、今まで重ねてきた経験を発揮。大量にプリントアウトされた台紙を、すばやく木枠に貼って立て看板を仕上げていった





ウォーゲーミングジャパンから寄贈された、八九式中戦車オブジェを、まいわい市場2階まで運ぶKGOたち。傷つけないよう階段を登るが、さすがに一苦労な様子



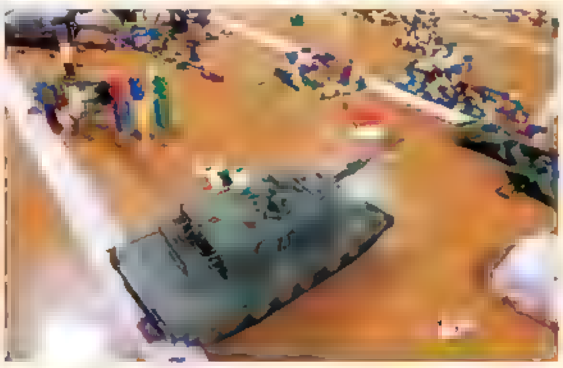


深夜まで続く設営作業

イベント前日になると、KGOもフル回転。2014年のあんこう祭では、深夜11時半まで各会場の設営作業が続けられた。もちろん、深夜に渡る作業は大変な事である。だが彼らは、来場するお客さんを楽しませるために奮闘。強い責任感と仲間意識で、準備を整えていった。









杉山PもKGOにまじり、率先して会場設営のお手伝い。常盤さんほかKGOや大洗町のスタッフは、杉山Pの気遣いに感謝しているようだ

そのこだわりでファンに認知されているプラッツと、デザインで『ガルパン』を支えるオーバードライブ。その情熱の源はどこにあるのか、各スタッフに直撃しました。



写真左より、望月さん、二神さん

望月保延・二神泰徳

もちづきやすのぶ ● プラッツ代表取締役社長
ふたがみやすのり ● プラッツ取締役常務

望月保延●1956年4月30日生まれ、静岡県清水区（旧 清水市）出身で取締役社長。大学卒業後、模型メーカーに就職。その後2000年4月に「有限会社プラッツ」を設立する
二神泰徳●1967年2月9日生まれ、愛媛県松山市出身で常務。大学卒業後、模型の仕事に憧れ静岡へ。4年半の模型メーカー勤務を経て、2000年4月、有限会社プラッツ設立に参加する

とにかく驚かされた ファーストコンタクト

――TV放映前の2012年5月のホビーショーには早くもガルパンモデルが展示されていました。早い段階から展開を始められた理由は？

二神　ストレートに言えば、バンダイビジュアルの杉山潔プロデューサーが関わった作品だからです。以前OVA『戦闘妖精雪風』を一緒にやらせていただいて、杉山さんが手がける作品ならきっとおもしろいだろうし、こだわった作りで長くやってくれるだろう、という想いがありました。

望月　杉山さんがやるアニメなら、売れても売れなくても悔いはない。そう思って始めました。戦車と美少女という組み合わせは、杉山さんらしい作品だと思いました。

二神　個人的にも『ガルパン』のような作品は好きなので、購買層がどのくらいいるのか、大体の見当がつきました。なので商品化を考えた際、この作品なら充分に行けるだろう、と判断しました。

――実際に映像を見た感想は？

二神　ここまで戦車の動きを再現するのか、と驚きました。事前に杉山さんから戦車をしっかりと見せて驚かせるという話は伺っていたのですが、それにしてもびっくりしました。そして1話のラスト、ズームアウトして巨大な学園艦の全景が露わになっていくシーンにさらに驚かされて、これはイケると確信しました。

望月　私もスタッフのこだわった映像に驚きました。先行上映会の後、会社のある静岡まで帰る新幹線の中で、興奮して二神と商品企画を話し合いながら帰ったことを思い出します。

――とくに印象に残ったシーンは？

二神　全部印象に残るシーンなので、どれがというと難しいんですが、第1話の冒頭ですね。偵察するみほと優花里の双眼鏡視点から描かれていた場面から、2人が戦車に乗り込んでいくシーンが衝撃的でした。戦場から始まる冒頭から、作品世界に引き込まれました。

望月　とにかく戦車の動きに度肝を抜かれました。実車の動きをアニメでここまでリアリティー豊かに再現できるのか、と。

――『ガルパン』は模型業界にどう影響を与えたのでしょうか？

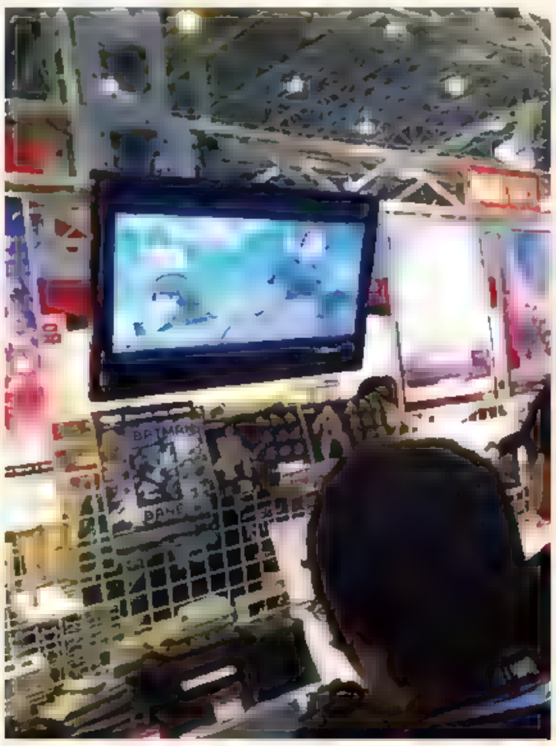
二神　戦車模型はマニアックな世界だったのですが、裾野が大きく広がりました。また戦車がスケールモデルとしてではなく、キャラクターモデルとして買われていたことを強く感じましたね。

望月　問屋さんや販売店さんの反応を見ていますと、発売当初は作品内容がよく分からないので、いつもと同じ戦車モデルとしての注文のスタンスだったのですね。でも案内をして少しずつ情報が出てくると、いつもの2～3倍は欲しいという声が上がってきたんです。そのひと月前に、初めて情報を流したときとは明らかに反応が違っていました。その変わり様がおもしろいほどでした。おそらく、お客さん側からの要望が強くて、変わっていったんですね。それが非常に印象に残っています。

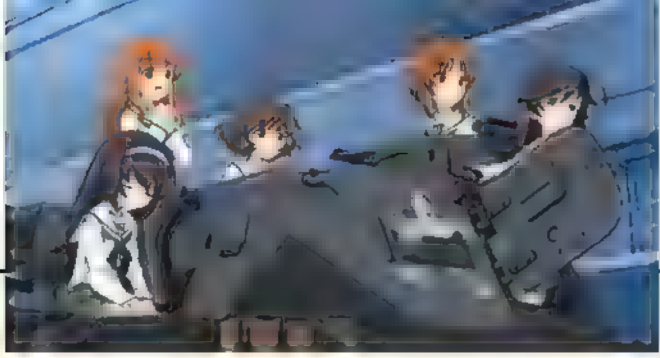
――ファンからの要望で商品化されたものなどありますか？







『ガルパン』放映開始直後に開催された、2012年10月の「全日本模型ホビーショー」で、プラッツは早くも試作品を展示した



プロジェクト

～ガルパンを支えた人びと～







作品の持つ熱が触媒となり起こった化学反応『ガルパン』はプラッツの恩人のような作品

二神　メールや電話、各ホビーショーなどの展示イベントで、リクエストをたくさんいただきました。アイテム的なものの要望が多かったですね。また、戦車模型を作り慣れていないお客さんが多かったので、もう少し作りやすくなったらいいな、というご意見もいただきました。そのあたりは開発後半にフィードバックさせていきました。『ガルパン』は、通常のスケールモデルと比べると、本当にお客さまからのリクエストが多かったですね。

開発時にはどんな点に気をつけていたか？

――模型化するにあたり、大切にした部分はどういうところですか？

二神　対象物をそのままスケールダウンして忠実に作るというのは当然ですが、作り上げたときにお客さんにどれだけ喜んでもらえるか、ということを大切にしました。たとえば、もともとキットのあった1：35 Ⅳ号戦車D型にガルパン仕様のデカールをつけましたが、色や形にこだわって作っています。またフィギュアシリーズは、ライトユーザーさんにも訴求できるよう、髪の成形色を変えたり、付属した目のデカールも、かなりこだわりました。お客さんに楽しんでもらうため、細部に渡ってひとつひとつの要素を見直しました。やっぱり、作っておもしろい、また作りたい、と思ってもらえるのが一番大事ですから。

望月　商売だから流行っているからやろう、というのではなくて、自分たちが心からやりたい、欲しいと思ったものを商品化することは、本当に良いものだ、と改めて思いました。実際に商品化していくうちに、社内でとことんまでやってやろうじゃないか、という気運が高まりました。

とくに『ガルパン』は、作品自体が非常におもしろかった。僕らを動かした、すばらしさがありますね。だからこそ作りたくなった。そのパワーはすごいな、と感じましたね。

二神　模型だけではなくグッズも自分たちが欲しいからこそ、作ったという感じですね。あんこうマークのワッペンも、自分が付けてみたいから作ったものでもありました（笑）。

――お気に入りの戦車は？

二神　38（t）戦車ですかね。第9話のプラウダ高校戦で見せた、生徒会長の活躍でとてもかわいく見えたので。それまでは不格好な戦車だと思っていたんですけど、アニメを見て好きになりました。

望月　僕は断然、Ⅳ号戦車D型。もともと好きな戦車でしたが『ガルパン』を見て、ますます好きになっちゃいました。作品内では、操縦席や車内まで精巧に描写されていて感動しました。でも、どの戦車もかわいく見えましたね。アヒルさんチームの八九式中戦車とか、すべての戦車が活躍する場面があったのが、とても良かったですね。

――今後のおススメ商品は？

二神　2014年夏の「ワンダーフェスティバル」で発表した、メインのⅣ号戦車D型。こちらのリニューアル版を予定しています。より組み立てやすくするため、細かく分割されていたパーツを再構成したり、ディテールを作品内の設定に合わせたものを開発中です。続いて1：35のフィギュア関係。現在、出ていないチームも続々と発売予定です。

――最後に読者へメッセージを。

二神　『ガルパン』の模型シリーズを皆さんに喜んでいただいて、模型雑誌のコンテストにも作って応募していただいているのを見て、こういう広がりができたのも、本当に『ガルパン』のおかげです。これからもファンの皆さんと一緒になって盛り上がって、戦車模型の世界もともに広がっていければ、と思っています。

望月　『ガルパン』がプラッツを押し上げてくれたと思っていますし、おかげでいろいろな商品展開ができました。ファンの方々と一緒にプラッツ自体がはっちゃけることで、会社としてひと皮もふた皮も剥けたと感じております。実は『ガルパン』のおかげで、それまで縛られていたスケールものの呪縛を、脱ぎ捨てることができたんです。今後の新製品を見ていただければ分かると思いますが、『ガルパン』以外でも斬新な切り口のものが次々に出てきます。

売上げも大きく変わりましたが、それだけではなくて、商品開発などで、もう一段上のレベルに押し上げる化学反応が起きたということなんです。その結果社内では、さまざまな発想の企画が出てくるようになりました。たとえば、ロダンの地獄の門を展示している静岡県立美術館とコラボして、「考える人」のフィギュアを作ったのは、その最たる例です。『ガルパン』は恩人みたいな作品です。こんなありがたいことは、これまでのプラッツの歴史の中では無かったと思っています。

写真左より、鑓田さん、原田さん、浜岡さん



OverDriveDesign
鑓田将臣・原田美穂・浜岡弘臣

やりたまさおみ ● 株式会社オーバードライブ 代表取締役社長
はらだみほ ● アートディレクター　はまおかひろたか ● デザイナー

代表作品に TV アニメ「涼宮ハルヒの憂鬱」、TV アニメ「らき☆すた」、TV アニメ「黒子のバスケ」シリーズの CD ジャケット。「ゆゆ式」ロゴ・コミックカバー。「鉄道むすめ ⑱ ～鉄道制服コレクション～」ロゴ・パッケージ・WEB サイトなど。アニメ・ゲームコンテンツのデザインを多く手がける。
株式会社オーバードライブ WEB サイト ● http://www.overdrive.jp/

キーワードは「戦車」と「女の子」と「学園艦」

――もともと皆さんは、ミリタリーなどに興味があったのですか？

原田　阪神淡路大震災があった時、人の役に立つ仕事に就きたいと思いまして、自衛官の試験を受けたことがあります。ただその当時は就職難で倍率がすさまじく高く、残念ながら試験に落ちてしまい、デザイナーの道に入りました(笑)。

浜岡　僕は、いわゆる一般的なイメージしか持っていませんでした。ドイツの戦車は強く、日本の戦車はそうでも無かった、とか……。ただ、ミリタリー色が強めの海外ゲームのパッケージなどには携わっていたので、そういったところが手がかりになるかな、とは思いました。

鑓田　戦車といえば、最初に浮かんできたのは学生の頃に夢中で遊んでいたゲーム「大戦略」でした。その頃のワクワク感を漠然とイメージしたかと思います。

――最初に制作したものは？

原田　『ガルパン』の公式デザイン会社のコンペにデザインが通ったあと、最初に頂いたお仕事は「戦車道選択専攻ガイダンス」という、三つ折のパンフレットでした。杉山潔プロデューサー(杉山P)から、基本的には官公庁のパンフレットのような少し堅い感じで、女の子向けにちょっとかわいいくらいのイメージで、というオーダーを頂きましたが、最初は画像素材が豊富にあるわけでもなく、「戦車」と「女の子」、「学園艦」の3つのキーワードを前に、どうデザインしていいのか、わからないところもありました。ですが、杉山Pが熱を込めて説明してくださったので、次第に掴めていったんです。

浜岡　最初はミリタリーと「かわいい」をどう結びつけたものか、やはり戸惑いました。その後タイトルロゴを担当させて頂くのですが、細かい鉛筆の線を重ねて太くするような、手書き風のロゴをイメージしながらも、試行錯誤の連続でした。ガールズの「ル」をわざと少しずらしてみたり、微妙なバランスを取りながら、現在の形になりました。

鑓田　手書き感を残しつつ、形状的なおもしろさも実現していて、あとから見返しても、奇跡的なバランスだと感じています(笑)。

浜岡　ミリタリーでも、ストロングな雰囲気だけではなく、自然物のかわいらしさを意識しました。戦車や英字部分の緑を少し濁らせたのも、ネイチャーな雰囲気を盛り込めたらと考えてのことでした。

原田　その戦車のシルエットですが、当初はⅣ号戦車の何型かわからなかったんです。そこで、小さくしても「戦車だ」ということだけはすぐにわかるように、かなり単純化して仕上げているんです。一方で、単純化しすぎて大丈夫かなと気にもなっていましたが、今はそんなところも含めて、これで良かったなと思っています。

今だから語られる冗談広告の誕生秘話

――当時は、こんなに長くお付き合いする作品になると思いましたか？

鑓田　オリジナル作品なので、どんな物語になるのか、誰にもわからなかった時期でもありましたね。

原田　脚本は頂いておりましたが、やはりアニメ放映時に、第1話のラストで巨大な学園艦が現れたとき「何だこりゃ!?」とビックリしました。また同時に、こういう世界観なのだと理解した瞬間でもありました。

――Blu-ray付属の「鑑賞の手引き」では、巻頭にユニークな広告を掲載していました。

原田　当初、巻頭部分は白いままで、というお話でした。巻末はスタッフクレジットで埋まっているのに、それでは全体的にバランスが良くないな、と



OverDriveDesign の『ガルパン』初仕事であるパンフレットは、放映前に秋葉原で配布された

思ったんです。そこで、シャレのつもりで、冗談広告を提案しました。ボツになるのを覚悟していたのに、スンナリと通ってしまいまして……。でも、何らかの形で『ガルパン』の世界観を補完できればいいかなと思っていました。あと、戦車道に参加している学校や戦車道連盟も、運営は大変じゃないかと思うんですね。そこで、よくある学校パンフレットのように、広告を掲載して費用を捻出しているという構成にすれば、おもしろいんじゃないかなと(笑)。

――あの広告には、そんな裏設定があったのですね。また、皆さんからの提案だったのには驚きました。

原田　こうだったら面白いかな?という軽いノリでの提案だったんです。でも、杉山Pが快諾してくださったので、とてもありがたかったです!

――本誌のデザインコンセプトでも、何か裏設定があるのでしょうか?

浜岡　立ち上げ段階では、それこそ雑誌っぽく見えるように、というところにポイントを置きました。また、戦車道連盟が発行している雑誌、というコンセプトなので、女性向けとはいえポップな紙面にはならないのでは?と考えました。

原田　Blu-ray6巻で月刊戦車道を取り上げたのですが、その時、もし本当にそんな雑誌があったら、囲碁や将棋の月刊誌みたいなものではないかと、3人で話していたんです。連盟と名のつく団体の機関誌なので、そんなイメージでした。

鐘田　なので、この増刊号はふだん固めの誌面を制作している編集部の方々が、無理して女子高生向けの雑誌を作っている……というデザインコンセプトです(笑)。

――デザインを制作する上で、それぞれの背景やストーリーを練り上げることがポイントなのですね。

原田　物語には登場しない、裏方さんたちの想いもデザインで表現できるといいなと考えていました。ヒロインたちは最新のタブレットを持っているけれど、乗車する戦車や車輌はそれこそ第二次世界大戦時のものですよね。そんな時代感を考え、ほんのり昭和の香りがするようなデザインを意識しています。例えば、洗練されたフランス料理よりも、定食屋さんのカレーのような。カッコイイというより、少しキュートで懐かしい感じが出せたらとはつねに心がけています。

新たな感動を体験した『ガルパン』の仕事

――『ガルパン』の仕事を通じて、印象的なことはありましたか?

原田　主題歌を歌っているChouChoさんのCDジャケットをいくつか担当している関係で、OP曲を決める際にランティスの小池プロデューサーから相談を受けたことです。候補が「DreamRiser」のほかに、テイストの違うシリアス目な曲があったんです。それで、絶対「DreamRiser」が良いです!と(笑)。

鐘田　「DreamRiser」のほうが明るくてキャッチーで、ChouChoさんの柔らかい声も作品に合うのではないかと。

原田　女の子が駆け出して、何かが始まるワクワク感が感じられる曲だったので強く推薦しました(笑)。あとは、水戸ホーリーホックの仕事ができたこと。私と鐘田は、Jリーグが大好きなんです。

鐘田　デザインした看板がピッチ脇に置かれたり、スタジアムに特大の横断幕が飾られたりと、なかなかできない体験をさせていただきました。

原田　姉妹対決のポスターや、JラボTシャツなども制作しましたが、もうノリノリでした(笑)。『ガルパン』でJリーグに関われたのが、すごくうれしかったですね。

浜岡　僕は、自分がデザインしたタイトルロゴがテレビ放映されたことですね。ゲーム関係のロゴを制作していたので、モニターで表示されるものはよく見ていたんです。でも、番組タイトルとしてテレビで放映されるのは初めてだったので、うれしい反面、これで良かったのかな、作品とマッチしているかなと不安にもなりました(笑)。あと、ロゴ下の戦車をアニメーションで動かしてくれたことにも感激しました。スタッフに感謝しております。

――『ガルパン』の仕事を通じて、何か新しい発見などありましたか?

浜岡　アニメ関係の仕事に携われたこと自体が、すごくいい経験になっていると思います。

原田　私は『ガルパン』で、人の縁のありがたさを感じました。作中のみほも、ライバルと仲良くなって仲間たちに助けられている。私も杉山Pほか、各スタッフさんに大変良くしていただきました。例えばこんな資料ありませんか?とお願いすると、自然と集まってくるんです。本当に人間関係やご縁は、大切だなと改めて感じました。

鐘田　『ガルパン』は、ファンの方にとても大切にされている作品で、スタッフの情熱と「好き」という感情もそこら中から伝わって来ますよね。その中で自分たちも、様々な提案をさせて貰えました。会話のキャッチボールで、どんどんアイデアが生まれ、それが実現しているんです。そんな環境で仕事ができていること自体、とても幸せなことですね。

「月刊 戦車道 増刊号」の実現や水戸ホーリーホックとのコラボなど、『ガルパン』では新鮮な経験の連続であった





デザインではカッコいいというよりも、少しキュートで懐かしい感じを心がけていました。

それいけ！

ガルパン料理道



模型製作：中村公彦





●今回のテーマ●

戦車ケーキ

今回はクリスマスも近い時期ということで、第5話に登場した戦車ケーキをピックアップ。大洗町にあるume cafe WAONさんが、こだわり抜いて作り上げた戦車ケーキの調理方法を、ご紹介したいと思います。

天保元年に創業の（株）吉田屋さんが、全国でも初めての梅カフェを開店したのは2014年の4月。そこで、1日限定15食で提供されているのが「戦車ケーキ」である。

「せっかく梅カフェをオープンするのなら、何かガルパンファンに楽しんでいただけるメニューを作りたい。また、ウチのフルーティーな素材も活かしながら、ほかにないケーキが作れたらと思い、戦車ケーキを始めました」と語るのは（株）吉田屋八代目の大山壮郎さん。ただし、試作段階では、かなりの試行錯誤が重ねられたようだ。

「立体的な戦車の形を、どのように作るかに苦労しました。とくに、砲身が倒れないような工夫ですよね。最終的には今の形になりましたが、そこまでが一番大変でした」

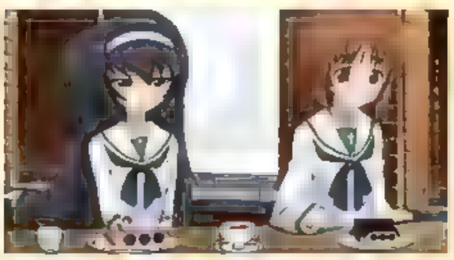
また形状以外にも、多くのこだわりが戦車ケーキに込められている。

「素材はすべて手作りです。車体のパイやロールケーキの中に入れている梅コンフィチュールも、すべて自分たちの手で作っています」

ぜひ皆さんも、自分なりの戦車ケーキを作って欲しい。







梅の風味がさわやか!



スィートな戦車ケーキの作り方

教えてくれた方 ume cafe WAON 杉本さん



まずは、ロールケーキの生地作り。WAONさんで使用している卵は「アスタの恵み」というブランド卵を使用。黄身はつまようじを10本刺しても崩れず、アスタキサンチンがたっぷり入っています。味も濃厚で、深い味わいが楽しめます。



生地を作ったら、クッキングペーパーを敷いた天板に生地を流し込み、オーブンに投入。WAONさんでは提供する当日の朝に、生地を焼いています。それは、できるだけ出来立てのものをお客さまに提供したいという、熱意の表れでもあります。



生地が焼けたら、そのまましばらく置いて寝かせていきます。これは、生地を冷ますためでもありますが、寝かせることでしっとりとした食感になるとのこと。ちょっとした手間をかけることで、生地が格段においしくなっていきます。



ここからが、いよいよ生地を巻く作業。梅コンフィチュールを塗った上に、生クリームをたっぷりとつけて巻いていきます。また戦車ケーキでは、「青梅」と「露茜」を用いた、二種類の梅コンフィチュールを使用したロールケーキを用意します。



履帯となるロールケーキは、大体15ミリほどの幅で切り分けていきます。なお「青梅」は、梅本来の味わい。スモモと掛け合わせて品種改良された「露茜」は、フルーティーで甘味があり、赤味が強いのが特徴となっています。



車体部分は、当日の朝に焼き上げたパイに「アスタの恵み」を使ったカスタードクリームを挟んで作ります。プルンとかなり弾力のあるカスタードクリームなので、うまく車体の形へと整える作業は、かなり難しいとのことです。



車体ができたら、履帯を模した二種類のロールケーキをつけていきます。そして車輪部分は、丸いクッキーで表現。車輪をつけたあとは、全体を包み込むように押さえていきます。だんだんとかわいらしい、戦車の形ができあがってきましたね。



全体の形が整ったら、しっかりと泡立てた生クリームで砲身を支える土台を作ります。そして、砲塔部分となる生クリームを塗って戦車ケーキは完成。丸みを帯びたシルエットは、カモさんチームのルノーB1bisにも見えますね。

プロが教えてくれる おいしさの秘密

戦車ケーキで一番むずかしいのがロールケーキ作り。初めての方だと、なかなかうまく焼けないことも多いだろう。
「ご家庭で戦車ケーキを作る場合、市販のロールケーキを使うのがいいかもしれませんね。また梅コンフィチュールは、砂糖漬けにした梅の果肉を細かく切り、ジャムと同じような要領で煮ていきます。果肉を少し残すことがコツですね」(大山さん)



ume cafe WAON

HP:http://www.kk-yoshidaya.co.jp/cominfo.html
住所:茨城県東茨城郡大洗町磯浜町624
電話:029-229-1223
営業時間:10:00～19:00　定休日:水曜

茨城県初の梅ブランド「常陸乃梅」を使用した梅シロップなど、多彩な商品を提供する大洗町の新名所。とくに「恋に恋するさおりんのスイート梅」(1,200円・税込)は、ガルパンファンにも好評である





Girls und Panzer Style

ガルパン流 戦車の楽しみ方

今回は、劇中で登場したくろがね四起の復元を手がける「株式会社カマド」の小林雅彦さんのミニミュージアムをご紹介。貴重な車輌の数々と、小林社長の思いをお伝えします。

劇中に登場した車輌を復元してみよう!

社長の小部屋とは!?



「社長の小部屋」とは、小林社長が収集したキューベルワーゲンなど貴重な軍用車輌を展示するミニミュージアム。NPO法人「防衛技術博物館を創る会」の連絡事務所も兼ねている

HP　http://www.k-m-d.co.jp/kobeva2/
住所　静岡県御殿場市かまど1042-2
電話　029-887-1171（総務部広報）
見学時間　土曜13:00～17:00　日曜11:00～16:00
入場無料・ドネーション制（募金制）
※都合により開館日時が変更となる場合もございます。
上記HPより、開館日をご確認ください

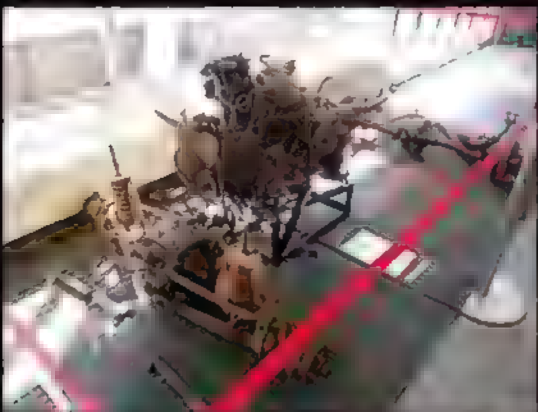
現在レストア中のくろがね四起



くろがね四起とは「ガルパン」第10話に、風紀委員が搭乗していた車輌。正式には「九五式小型乗用車」といい、1936年に製造を開始。四起とは四輪駆動を意味しており、欧米に先駆けて実用化された。

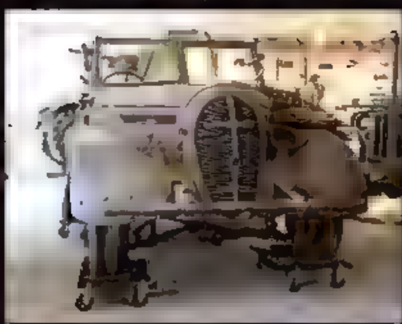


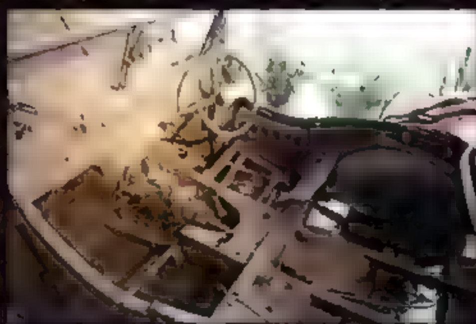
第10話に登場したくろがね四起は後期型だが、ミニミュージアムのものは初期型である。しかもこの初期型は、京都で発見された日本で唯一の車体で、現在レストアが進行している　写真提供：大塚正詩





外装は工場にてレストア中のため、現在はエンジンとシャーシを展示中。ボロボロに見えるが、意外と状態はいいようだ





復元支援Tシャツも発売中





Tシャツのイラストは、アニメーター・大塚康生さんが、19歳のときに実物を見て描いたもの。一枚5,000円(税込)で、収益はすべて、くろがね四起復元の費用に当てられる

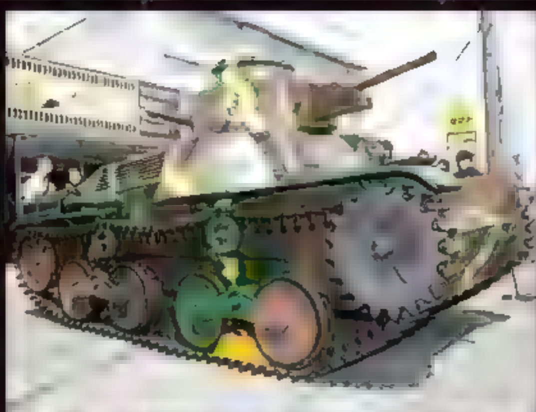
通販HP　http://kamado.thebase.in/



上の写真は、4月に行なわれた社長の小部屋オープン時に撮影されたもの。ただしイベントで走行させたあと、各部が金属疲労で損傷。修理中のため、残念ながら現在は展示されていない。

なお、本車はもともとミニシリーズ「ザ・パシフィック」で使用されたものである。

九五式軽戦車(撮影用プロップモデル)



「プロップモデル」とは、映画撮影用に製作された実物大レプリカのこと。オーストラリアで購入したものに、ディテールアップが施されている。またエンジンを搭載し、実際に走行することも可能である

教えて！小林雅彦社長
くろがね四起を復元する理由



——なぜ、くろがね四起を復元しようと思われたのですか？

現在、私は「防衛技術博物館を創る会」というNPO法人の代表理事を務めていますが、活動を通じていろいろなお話が来るんです。そのとき、くろがね四起が日本にあると聞いて驚いたんです。しかも、所有者は「株式会社カマド」を設立した私の父親と知り合いで。そういう縁が重なり、くろがね四起の復元を手がけることになったんです。この初期型は日本で一台しかなく、誰も復元を手がけない。ならば、自分しかいないとも、思いました。

——レストア用の資金集めでは「READYFOR」というクラウドファンドを利用していましたが。

これは紆余曲折でした。女性の担当者は興味を持ってくれましたが、上司の方からは少し金額を下げてはと言われました。でも、予定額の1000万円がダメなら断ると申し上げたんです。なぜなら、くろがね四起の復元は所有者との男と男の約束。もしダメだったら自腹を切ってでも、復元する覚悟でした。そうしたら、上司の方もオーケーを出してくれたんです。また、実際にクラウドファンドで多くの方々にご支援いただけなければ、予定額以上の金額は集まらなかったと思います。これには、本当に感謝しております。

——『ガルパン』を見たときの感想を教えてください。

私はアニメも好きで、よく「クレヨンしんちゃん」の劇場版を見て、スペクタルな内容がすごいと感じていました。それで水島努監督の名前が、頭にインプットされていました。そんな熱いスタッフたちが参加しているのなら『ガルパン』も見てみようと思ったのが運の尽きですね（笑）。王道のストーリーもよかったし、戦車道でなくても別のスポーツでもおもしろいだろうなと思いました。

——好きなヒロインは？

実は五十鈴華さんなんです。戦車に興味がなかった女の子が、本質を理解したうえで、戦車道に参加する。そんな彼女の物語が好きですね。将来、戦車道で学んだことを華道に活かして「昔、家元は戦車に乗っていたんだよ」と、弟子にびっくりされる第二のドラマを妄想しています（笑）。

——最後に、読者へメッセージをお願いします。

やはり、機械は「機能美」だと思うんです。とくに軍用車輌は、命のやり取りも含まれてくるので、機能がより工夫され、お国柄も出てくる。そんな車輌を多くの方々に見ていただくため、現在「防衛技術博物館」の設立に向けて動いています。先人たちの苦労や創意工夫を見て、工業技術の礎になるような施設を作っていきたいので、応援をよろしくお願いいたします。

そのほかの展示車輌も貴重なものばかり

社長の小部屋内は、ミリタリーファンでなくても興味をそそられる車輌ばかり。また季節ごとに、展示車輌は入れ替えていくとのこと



ケッテンクラート

ドイツで空挺作戦用の牽引車として開発。名称の「ケッテン」は履帯、「クラート」はバイクを意味する。1941年より生産を開始。降下猟兵だけでなく陸軍や親衛隊にも使用され、ソビエトの泥濘地からアフリカの砂漠地帯まで、幅広い地域で活躍した



シュビムワーゲン

1941年から生産された、ドイツの水陸両用車輌。キューベルワーゲンの改良型でもある。大きな特徴は、バスタブのような車体と四輪駆動が導入されたことにある。また車体後部に跳ね上げ式のスクリューがあり、水上でも高い機動力を発揮した



キューベルワーゲン

フォルクスワーゲンをベースにした、ドイツの軍用車輌。1940年から量産が開始され、さまざまな派生型がある。また二輪駆動にも関わらず、悪路の走破性が高かった。そのためドイツ軍が展開した地域のすべてで活躍。将兵からも好評を博した

こだわりのディスプレイ



展示スペースの一角は、映画「プライベートライアン」の一シーンを再現。また、展示されている日本軍の軍服は、佐々木あけび役・中村桜さんの写真集用として、貸し出されたこともあるそうだ





ウィリスMB

「ジープ」の名で知られている、アメリカの軍用車輌。キューベルワーゲンの活躍を見たアメリカ軍が、国内自動車メーカー各社に開発を依頼。その後の増産計画にともない、1942年からウィリス社が生産を開始した



シュタイヤー1500A/02

オーストリアのシュタイヤー社により生産された、ドイツ軍の兵員輸送車。1941年から生産された同車は、四輪駆動式で優れた走破性を発揮。搭載量も多かったため西部戦線はもとより、東部戦線やアフリカ戦線でも活躍した

秋山殿がアナウンスを担当！



株式会社カマドに併設されているガソリンスタンドでは、秋山優花里役・中上育実さんのアナウンスを放送中。内容は7つあり、毎月組み合わせを変えて放送する



給油で立ち寄った際には、ぜひ秋山殿の声に耳を傾けて欲しい

震災工作車

大規模災害における、がれきなどの障害物排除用の緊急車輌。小林社長が所有している車輌は、三菱重工製で重さ約16トン。車体前方には障害物除去用のドーザーを備え、後部にはクレーンや油圧シャベル、発電機などを装備している





日照プラントさんがCV33を制作！

教えて! CV33を作った理由

照沼 修専務

――CV33を作ったきっかけは？

去年の八朔祭でファンの盛り上がりを見て、すごいなと感じたんです。そこでお神輿感覚でIV号戦車を制作しました。今回のCV33もそれと同じで、ノリと勢いで作ってしまいました(笑)。

――制作の工程を教えてください。

まず鉄筋で骨組みを作り、そこから全体のバランスを微調節しました。そのあとベニヤ板で各部の型を取り、鉄板を切って骨組みに溶接しました。あと、人が乗る前方の鉄板は少し厚めにして、他は薄い鉄板を溶接しました。

――お披露目の反響はいかがでしたか？

あんこう祭第2会場でお披露目しましたが、多くの皆さんやコスプレイヤーさんが、記念撮影をしていかれました。皆さん笑顔で対応してくれて素晴らしいなと思いましたね。

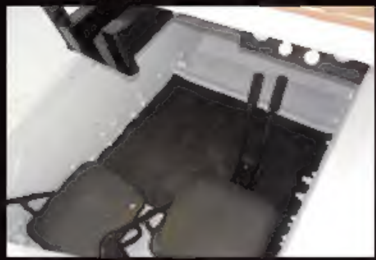
――今後の抱負をお願いします。

ちゃんと履帯で走れるようにしたいですね。エンジンは入手していますが、履帯や足回りは作り直さなければならない。プレッシャーを感じることもありますが、作り上げた時のよろこびも大きいですし、皆さんによろこんでいただけることがうれしいですね。

エンジンは、納屋に眠っていた脱穀機のものを使用予定。現在、メンテナンス中である



操縦桿は、エンジン搭載後にワイヤーをつなげるだけで、操縦できる状態になっている



足回りは、まだまだ改良が必要とのこと。今後は、実際に走れるようにするそうだ



実物大で再現された豆戦車

日照プラントの照沼修専務が、すべて手作りで作り上げたCV33。公式HPの設定資料から寸法を割り出しており、かわいらしいシルエットも、実車そのままに再現されている。





後部の構造も、ツルハシやジャッキの位置を忠実に再現。照沼専務の、高い技術と情熱が感じられる造形である

ガルパンが模型業界に与えた影響とは？

今回で最終回となる『戦車の楽しみ方』。最後は『ガルパン』とともに歩んで来た2つのメーカーさんから、作品が業界に与えた影響や思いをお聞きしてみました。

ピットロード 企画開発部 馬場俊幸さん

――『ガルパン』に協力した、経緯や理由を教えてください。

バンダイビジュアルさんから、弊社の「1/144 陸自10式戦車」デザインデータ提供のご依頼があったのが、最初のきっかけでした。その後、本編に登場する車輌やキャラクターのプラモデル、フィギュアのほか、OVA劇場公開版特典フィギュアなど、弊社としてはこれまでになく大きく関わった作品になりました。

――実際に『ガルパン』を見たとき、どんな印象を持ちましたか？

最初は奇想天外な設定に驚かされ、次に戦車の描写の緻密さに驚かされました。これまでも戦車が登場するアニメはありましたが、ここまで中心に据えたものはなかったように思います。これはマニアにはたまらない作品になるのではないか、と思ったことを覚えています。またEDテロップに弊社の名前が掲載された、初めての作品だったのでうれしく思いました。

――模型業界に大きな影響を与えましたが、何が要因だと思いますか？

キャラクターの魅力だけに留まらず、戦車をしっかりと描いたことにあると思います。その結果、戦車のスケールモデルが一躍脚光を浴びました。弊社製品にも、自衛隊の車輌模型等に多くのお問い合わせをいただきました。

――商品化にあたり、こだわったポイントを教えてください。

EDに登場するIV号D型を立体化した際には、作品の雰囲気を壊さないようにデフォルメしつつ、スケールモデルのメーカーとして外せない緻密さにこだわりました。また、キャラクターのフィギュアをいかにして自然なポーズで搭乗させるかという点も、かなり苦労しつつこだわったポイントです。

――劇場版では、どんなストーリーを期待していますか？

発売予定のIV号D型改はもちろんのこと、生徒会チームの38(t)など、比較的出番が少なかった戦車もどんどん活躍してくれるとうれしいですね。

――今後の、イチ押し商品を教えてください。

来年春に「IV号戦車D型改(F2型仕様)エンディングver.」を発売予定です。長砲身化した車体は各部装備品と共にF2型仕様へ大変更。あんこうチーム5人もパンツァージャケット姿の新規造形となります。ご期待ください。

ファインモールド 営業・広報担当 熊澤弘さん

――『ガルパン』に協力した、経緯や理由を教えてください。

正式な企画書もない頃に「戦車キットの3D設計データをお借りして、戦車がバリバリ動くアニメを作りたい」とご相談を受けたことですね。そんな硬派な作品が受けるのかなと質問すると「乗るのは女子高生です」と言われ、我々の頭の中に「？」がいっぱいになりました。弊社も「ノリと勢い」に自負を持っていますので、何だかワカンナイけどおもしろそうだと感じました。

――実際に『ガルパン』を見たとき、どんな印象を持ちましたか？

「うわぁ何だこりゃあ!?」につきます。予想以上に重厚な動きとサウンドを放たれたので。でも、そのこだわりが戦車と不釣り合いなヒロインたちの、カワイさを引き立てていると思いました。そして第1話ラストの「学園艦」が出現した映像で、またもや「うわぁ何だこりゃあ!?」ってなりました。

――模型業界に大きな影響を与えましたが、何が要因だと思いますか？

放映当初から、視聴者が制作スタッフに「戦車と戦車模型への愛」と言う共通項を感じていたからだと思います。また、想像を超える戦車の映像が次々と現れたことで、さらにファンが作品と制作スタッフに共感したと思います。

――商品化にあたり、こだわったポイントを教えてください。

作品との一体感を持たせるため、組み立て説明書巻頭を搭乗キャラによる実車解説イラストにしたのが一番のこだわりです。公式コミックを描かれた才谷屋龍一先生にお願いし、1アイテムごとに描き下ろしていただきました。

――劇場版では、どんなストーリーを期待していますか？

やはり知波単学園の活躍ですね！ 日本戦車だけでなく西さん以外の知波単学園生徒さんキャラに期待しています!! あと我らが「はっきゅん」も、新たなスローガンが描かれるのか？ コレも期待しています。

――現在、イチ押しの商品を教えてください。

年内に発売予定の『戦車USBメモリシリーズ』。八九式とIV号D型をちっちゃなUSBメモリとして再現。八九式は当社の1/35スケールキットの設計データから、IV号D型もアニメの3Dデータを基にモデル化しました。

月刊戦車道

第63回戦車道全国高校生大会 増刊 第6号

02 グラフィック イン アクション
挿絵／原画：杉本功　仕上：原田幸子　特効：古市裕一　CG：長澤洋二(グラフィニカ)
背景・戦車レタッチ：片平真司(スタジオアカンサス)

04 連載小説 聖グロリアーナ女学院、戦いの軌跡
聖グロリアーナ女学院×黒森峰女学園への道
文／鈴木貴昭
挿絵／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一　CG：紙谷寛太郎(グラフィニカ)
背景：岩瀬栄治(スタジオ・ちゅーりっぷ)　監修：杉本功

14 不肖・秋山優花里の戦車講座
文／糟谷富美夫
挿絵／モリナガ・ヨウ(17p)

18 大洗女子チームの日常
文／岡田邦彦
挿絵／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
背景：岩瀬栄治(スタジオ・ちゅーりっぷ)　監修：杉本功

22 大洗女子チームメンバー 戦車愛を語る
文／鈴木貴昭
挿絵／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一　CG：後藤岳(グラフィニカ)
背景：岩瀬栄治(スタジオ・ちゅーりっぷ)　監修：杉本功

27 ライバルチーム研究
文／鈴木貴昭　協力／吉川和篤

30 ガルパン トピックス

32 ガルパン・イベントレポート

35 バック トゥ ザ カーニバル

36 ガルパン メイキング ログ

38 プロジェクトG ～ガルパンを支えた人びと～
望月保延・二神泰徳／鑓田将臣・原田美穂・浜岡弘臣

42 それいけ! ガルパン料理道

44 ガルパン流 戦車の楽しみ方



■表紙の戦車
大洗女子学園
Ⅳ号戦車D型改(H型仕様)

所属：大洗女子学園
生産：ドイツ
製造：クルップ社

CG：柳野啓一郎（グラフィニカ）
背景：岩瀬栄治（スタジオ・ちゅーりっぷ）

企画・編集・執筆
五十嵐智（バンダイビジュアル）
杉山潔（バンダイビジュアル）
小牧雅伸（スタジオ小牧）
千手創壱（スタジオ小牧）
鈴木貴昭
岡田邦彦
糟谷富美夫
モリナガ・ヨウ

執筆・編集協力
塩田昌之

写真提供
グランドパワー（ガリレオ出版）
大洗まいわい市場
大塚正論
WARGAMING JAPAN
吉川和篤

カバー・本文デザイン
原田美穂（OverDriveDesign）
石橋英孝（OverDriveDesign）
浜岡弘臣（OverDriveDesign）

協力
バンダイビジュアル
アクタス
グラフィニカ
スタジオ・ちゅーりっぷ
スタジオアカンサス
プラッツ　ファインモールド　ピットロード

大洗町商工会
常盤良彦（クックファン・大洗まいわい市場）
高橋亘（大洗まいわい市場）　田中隆二（大洗まいわい市場）
ume cafe WAON　日照プラント工業
株式会社 カマド　水戸東照宮
大洗町の皆さま
ガリレオ出版
中村公彦
吉川和篤

発行日　2014年12月18日
発行人　前田明雄
発行所　バンダイビジュアル株式会社
〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-18-14 恵比寿ファーストスクエア
http://www.bandaivisual.co.jp/
印刷所　株式会社テンプリント

ガールズ＆パンツァー劇場版
来年夏公開予定！

あんこう祭で、ついに公開時期が発表された劇場版。現時点では西絹代の登場が確定しているが、新ヒロインも複数出る模様。続報などは、公式HPにて確認して欲しい。









知波単学園の隊長・西絹代だけでなく、ダージリンなども登場予定。新たな大洗女子の戦いが始まる来年夏が、今から楽しみだ！

ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER
月刊 戦車道 特別編集
月刊 戦車道 第63回 戦車道全国高校生大会 増刊第6号
●発行：財団法人 日本戦車道連盟 Tel.1000-100-5050
●編集：月刊戦車道 編集部
●発売・販売元：バンダイビジュアル株式会社

TU-0275

